中世蒙古語の動詞語尾の体系

小沢重男

I

§1.1 蒙古語の歴史は，古代蒙古語，中世蒙古語，近代蒙古語の三段階に区分されるが[1]，文献によって，実証的な研究に従事し得るのは，中世蒙古語の段階からである。中世蒙古語は，概略，13 世紀から 16 世紀までの蒙古語を指すとされているが，15, 16 世紀に属する文献は，私の知る限りでは，大部分目睹し得ない処であるから[2]，現在，吾々の研究対象となし得る中世蒙古語は，13, 14 世紀の蒙古語であるといい得る。

中世蒙古語研究のための文献・資料は少くはない。即ち漢字音訳蒙古語資料[3]，ウイグル式蒙古字の諸碑文[4]，パスパ蒙古語の諸碑文[5]，アラビヤ字蒙古語諸資料[6]，等々が挙げられる。此等の中で，質量共に第一位の資料的価値を持つものは，云うまでもなく漢字音訳蒙古語資料に属する「元朝秘史蒙古語」である。原名を「蒙古の秘史」[7] (Mangqol-un ni'uca tobca'an) と呼ぶ此のモンゴル民族の最古にして，最大の古典は，中世蒙古語研究の宝庫である。中世蒙古語の研究は「元朝秘史蒙古語の研究」に始まり，「元朝秘史蒙古語」に還ると云っても過言ではなかろう。

さて，中世蒙古語は，各国の優れたモンゴリストの手によって，その言語の概貌はすでに明かにされている。併し，その音韻，形態，語彙等の細部となると，未だ研究の余地は多分に残され，言語構造の全貌は明るみに出されているとは云えない。特に，「元朝秘史蒙古語」は，中世蒙古語に於てのみ，或は此の文献に於てのみしか発見されない多くの語，形態素，文論的特徴等々の多くの特色を持っているが，此等に対する詳細な研究は多きを数えない[8]。

私は，丁度，十年前から「元朝秘史蒙古語」の研究に——特に中世蒙古語に於てのみ発見される特徴的な形態素についての研究に——従事して来たが，此の小論は，此処数年間の私の研究をまとめ，更に極く最近の私の新しい見解を示したもので，中世蒙古語の indicative endings の体系については，一応の解決を与え得たものと考えている。今後も「元朝秘史蒙古語」を中心として，「中世蒙古語」の研究に一層の力を注ぎたいと思っている。

§1.2 本研究の出発点とその経過

蒙古文語には indicative endings として，現在形に -mui/-müi; -mu/-mü, 過去形に -bai/-bei; -ba/-be, -juqui/-jüküi; -juɣu/-jügü, -luɣai/-lügei; -luɣa/-lüge 等々の形が見られるが，今までに公刊されている多くの蒙古語文語文典[9]には，上記の諸語尾は，只，現在の語尾，過去の語尾として羅列されているに過ぎない[10]。併し，「凡そ言語に於ては，原則的に異った形は異った意味を持つ」という観点に立

って考えれば，此等の同一と見做されている幾つかの語尾は，その表わす文法的意味なり，職能なり，用法なりに於て，何か，何処かに差異があるのではなかろうかという疑問が当然湧いてくる。此の疑問が私の研究の出発点になった。私は先づ蒙古文語について，此等の語尾を調べて見たが，思わしい結果を得られなかった。その為，暫らくの間は暗中模索の状態が続いたが，その時，従来から私の研究の対象としていた中世蒙古語の最も優れた文献である「元朝秘史蒙古語」に此の問題の解決を発見し得る鍵が求められないだろうかという考えが私の頭に浮んだ。此の考えを早速実行に移し，「元朝秘史」の全巻に亙って，動詞語尾 (indicative endings) を精査し始めたのがもう七年前のこととなった。それ以来，私の此の調査を継続しつゞけて，その中間報告として，二，三の小論[11]を発表し，そこで中世蒙古語の -bi, -ligi/-liyi なる endings は実は -ba/-be, -lu'a/-lu'e の女性形である事を私は発見した。私は，此の発見に勇気づけられて，更に研究を続行したが，当時は未だ上に述べた私の疑問を解明し得る何物も持っていなかった。処が本年の始めに，完了の語尾 -lu'ai が -lu'a/lu'e の複数形であり，-la'ai/-le'ai が -la'a/-le'e の複数形であることを発見して以来，私の研究は急速に進展し，此等の語尾群の研究に着手してから七年目の現在，やっと私の最初の疑問をときほぐす事が出来た。その結果は，蒙古文法の -mu/-mü : -mui/-müi, -ba/-be : -bai/-bei 等々が，中世蒙古では後に述べる如き原則の上に立って使い分けられていた事を明かにし得た僅りでなく，中世蒙古語の indicative endings は可成り整然とした体系を持っていたことを明かにし得た。此の小論では，以上の結果を「元朝秘史蒙古語」を主として引証しつつ述べることにした。

§2. 中世蒙古語の諸資料を精査すると次の indicative endings が発見される。それ等を以下に示すことにしよう。下記の語尾は殆ど総て「元朝秘史蒙古語」の中に発見されるが，～～線を施した語尾は他の文献に於て発見したものである。( ) の中は対応の文語形を示す。

現在及び未来
- ① -mu(-mu/-mü), -mui(-mui/-müi), -mi
- ② -yu(-yu/-yü), -yi
- ③ -u(-u/-ü), -uyi(-ui/-üi), -ai(-ai/ei), -i
- ④ -d

過去及び完了
- ⑤ -ba/-be(-ba/-be), -bai(-bai/-bei), -bi
- ⑥ -ju'u(-juɣu/-jügü), -ju'ui(-juqui/-jüküi), -cu'u(-cuɣu/-cügü), cu'ui(-cuqui/-cüküi), -jigi, -ji'ai(jiɣai/-jigei), je'ai, -cigi
- ⑦ -lu'a/-lu'e(luɣa/-lüge), -lu'ai(-luɣai/-lüget), -la'a/le'e(-laɣa/-lege), -la'ai/-le'ai(-laɣai/-legei), -ligi, liyi, -leyi
- ⑧ -'a～-'ai

-mi は (Leiden.) に僅か一例であるが発見される。Poppe 教授は，此の -mi のついた yarmi (出る) に？マークをつけている。僅か一例ではあるが貴重な例である。-jigi と -cigi は*(S.M.I. 1335) に見られる形で Cleaves 教授の註が附されている。-leyi は (T.D.M.)** に büleyi として一例みられる。此も一例のみではあるが貴重な例といえる。此には Mostaert 師の註が施されている。

以上例記した処から明かな如く，④ の -d を除けば，総ての語尾が二或いはそれ以上の交替形 (variant forms) を持っている。之等の交替形の中で，-bi, -jigi(-cigi) 及び -ligi, -liyi に関しては，各々，-ba/-be; -ju'u, -ju'ui; -lu'a/-lu'e, -la'a/-le'e の女性形である事がすでに実証されているが[2]，他の交替形に関しては未だ定説はないと云える。私の調査の結果，以下の事が明かになった。その結論を最初に次の図表によって示すことにしたい。

§2.₂ 中世蒙古語の indicative endings は次の如き体系を有していた。

	男性単数	女性単数	男性複数	指上形	指下形
現在及び未来	-mu	-mi	-mui	-mui	-mu
	-yu	-yi	*-yui	*-yui	-yu
	-u	-i	-uyi, -ai	-uyi	-u
	(-n		-d)		
過去及び完了	-ba/-be	-bi	-bai	-bai	-ba/-be
	-ju'u	-jigi, -ji'ai	-ju'ui	-ju'ui, -ji'ai	-ju'u
	-cu'u	-cigi	-cu'ui	-cu'ui	-cu'u
	('a		'ai	'ai	'a)
	-lu'a/-lu'a, -la'a/-le'e	-ligi, -liyi	-lu'ai, -la'ai/le'ai, -la'a, -leyi		-lu'a

私の約十年間に亙る研究の成果は，此の表によって書き尽されている。「指上形，指下形」という言葉の意味は後段を参照していただきたい。私は，此の概念を -lu'a/-lu'e と -la'a/-le'e の研究過程に於て引き出し得たが，此の考えを，-mui, -bai,, -ju'ui 等々の語尾にも援用することによって，此等の語尾の問題の大部分を解決し得た。此の三語尾を単に「複数形」とのみ見做したのでは，問題は解決しない。余りにも例外が多く存するからである。併し，「指上形」という職能をも合わせ持っていたと考えることによって，此等多くの例外の殆ど総ては解決されるのである。それでは，以下に，中世蒙古語の indicative endings は上の様な体系の下に可成り厳密に使い分けられていたという事実を各語尾毎に項目を分けて，実例を引用しつゝ証明することとする。尚，各々の語尾の元朝秘史蒙古語に於ける全用例を此処に総て示すのが理想であるが，優に千例を越える実例総てを，かゝる小論に於

* (S.M.I. 1335) は F.W. Cleaves, The Sino-Mongolian Inscription of 1335 in memory of Chang Ying-jui の略号

** (T.D.M.) は Mostaert, Antoine et Cleaves, Francis Woodman, Trois documents mongols des Archives secretes vaticanes の略号

て例示することは到底不可能である。それ故，各語尾の全用例は，その各々の項目に於て，該語尾の現われる場所と回数を示す図表を附記することにして，記述の理解を妨げない程度で，その用例を取捨撰択せざるを得なかった。若し全例に目を通すことを希望される方は，最後に一括して附した語尾表によって，直接原典についてお読み願いたい。引例の殆どは「元朝秘史」からのそれであるが，「元朝秘史蒙古語」に現われない語尾例えば -jigi 等は他の文献から引用したものもある。その際はその文献の名前を附記することにした。

尚，「元朝秘史蒙古語」以外の文献に於ける使用例の語尾表も附記しようかと思ったが，「元朝秘史蒙古語」の語尾表を附記する事で十分と思い割愛した。

§3.$_1$ -lu'a/-lu'e, -la'a/-le'e, -lu'ai, -la'ai/-le'ai, -ligi～-liyi, -leyi

本来なら，現在時を表わす動詞語尾 -mu, -mui, -mi から説き始めるのが常道であろうが，上に述べた「指上形」「指下形」の概念を説明しなければならないから，特に，-lu'a/-lu'e 等々から始めることにした。此の語尾群の中，以下の例に示すが如く，-lu'ai は -lu'a/-lu'e の plural form, -la'ai/-le'ai は -la'a/-le'e の plural form, -ligi～-liyi は以上の形の feminine form であることは，その認知に左程多くの時間を費さすことはなかったが，-lu'a/-lu'e と -la'a/-le'e との関係如何という問題が最後まで私を悩ませた。併し，此の難問も一つの端緒から解決の光を与えられ，第四十三回言語学大会で発表した如き結論を導き得た。此の両語尾の相違は，結局の所，中世蒙古語に於て存在した一種の敬語法，私の此処で云う「指上形」と「指下形」にあるという事が明かになった。以下に此の概念を実例を以て説き，後に -lu'ai, -la'ai/-le'ai, -ligi～-liyi, 等の用例を示そう。

§3.$_2$ -lu'a/-lu'e と -la'a/-le'e。先づ以下の用例を見ることにしたい。

1. (八10四) Cinggis qahan ugulerun.....bi ucugan caq-tur qurban Merkid-
チンギス 可汗 曰く 私は 幼い 時 に ゴルバン メルキッド

un Uduyid-ta Burqan Qaldun-i qubci'ulju ayu'uldala'a (成吉思汗が臣下の
の オドイッド に ボルカン カルドン山をめぐらされて 恐れさせられた

Sube'etai (速別額台) に向って云った言葉)

2. (三 1 八) To'orinl Wang qan ugulerun bi nidoni cimada ese'u ugulele'e
トオツル ワン 汗 曰く 私は 去年 お前に 云わなかったか

.....keyen (王汗がテムヂンに云った言葉)
と云って

3. (十35 二) Cinggis qahan morilarun Tanggud irgen-u Bur qan-dur elci
チンギス 可汗が 出陣する時 タングット 民 の ブル 汗 に 使を

ilerun bara'un qar cinu bolsu ke'elu'e ci.....bara'un qar bolun morila ke'eju.....
遣わして 右 手←汝の になろう と云った 汝は 右 手と なって 出陣せよ と云って.....

(成吉思汗がタンクットのブル汗に遣わした言葉)

4. (四 43 四) Cinggis qahan ugulerun edo'e ya'un ke'egu erte udur qurban
チンギス 可汗 曰く 今は 何 と云おう かつて ゴルバン

Merkid ireju Burqan-i quci'ulqui-dur amin minu nikante abcu qarulu'a ci edo'e
メルギドが 来て ボルカン山を めぐらされた 時 命を←わが 一回 取り 出した 汝は 今

basa.....keyen　(成吉思汗が臣下のヂェルメに云った言葉)
又.....と云って

先づ (1) の -la'a は成吉思汗が臣下の遠別台に向って「自分は幼い時にメルキッドのオドイッドのために恐れさせられた (ayu'ulda-la'a)」と自分の行為を述べた述語動詞の語尾として用いられている。(2) の -le'e も王罕がテムヂン——当時のテムヂンは王罕に対して臣下の礼をとっていた——に対して「私は去年お前に云わなかったか (ese'u ugule-le'e)」と自分の行為を述べた動詞の語尾として用いられている。然るに (3) の -lu'e は成吉思汗が臣下と見做しているタングットの汗に対して,『「あなたの左手となりましょう」と云ったのだ, お前は (ke'e-lu'e ci)』の如く, 相手の行為を述べた動詞の語尾として用いられ, 更に (4) の -lu'a も成吉思汗が臣下の者別に対し「お前はかって私の命を一度救った, お前は (qaru-lu'a ci)」と, やはり相手の行為を述べた動詞の語尾として用いられている。

以上の四例に共通して見られることは,「(1) -la'a と -lu'a が用いられているのは会話文であること, そして (2) その会話は社会的に優位なる者 (superior) が, 自分より劣位にある者 (inferior) に向ってなされた会話であること」という二点である。異っている所は「例 (1)(2) に於ては話者 (優) が自分の行為を述べているに反し, 例 (3)(4) に於ては話者 (優) が話し相手 (劣) の行為を述べている」点にある。此の点に着目することによって, -lu'a と -la'a との使い分けの次の原則 ① が帰納される。即ち

原則 ①　話し手 (優)→話し相手 (劣) の線で取りかわされる会話文に於て話し手が自分の行為について述べた述語動詞の語尾には -la'a/-le'e を用いる。
話し手が話し相手の行為について述べた述語動詞の語尾には -lu'a/-lu'e を用いる。

上に述べた「-la'a と -lu'a が用いられるのは会話文に於てである」という事は, 中世蒙古語に於ける著しい特徴で, 会話文でない所謂, 一般の記述文に用いられているのは全例 60 例 (-lu'a/-lu'e 26 例, -la'a/-le'e 34 例) の内, 僅か 3 例に過ぎない。此の事実が -la'a と -lu'a との問題を解く第一の鍵となった。

5. (二 41 七, 八) Jarci'udai ugulerun Onan-u Deli'un Boldoq-a bukui-dur
ヂャルチダイ　曰く　オノン河の　テリウン　ボルタックに　いる　時に
Temujin-i torohui-dur buluqan nelkei ogule'e bi ene ko'u-ben Jelme-yi ogule'e
テムヂン が　生れた　時に　黒貂の　むつぎを 与えました 私は この　子　を ヂエルメを 与えました
gu bi ucugan ke'yen abcu odula'a edo'e Jelme-yi eme'el-iyan toqu'ul e'ude-yen
ぞ 私は　幼い　と云って つれて 行った　今　ヂエルメをして 鞍　を　置かせよ　門　を
negu'ul ke'eju ogba
開かせよ と云って 与えた

6. (二 35 一) Bo'orcu ugulerun ya'un bolba sayin nokor mungtaniju
ボオルチュ　曰く　"どうしたのです　よい　友が　艱難して
ayisun aju'u nokoceju odula'a bi edo'e ireba ke'ed
やって来たのです　伴となって 行ったのです 私は　今　帰ったのです" と云って

(ボオルチュが父の納忽伯顔に云った言葉)

7. (十25二) tende Kokocos jeu'un ete'ed baiyiju ugulerun Ca'adai yekin
そこに ココチォスが 左 側に 立っていて 云うには "チアダイよ どうして

ya'arayu——中略——bule'en-ece buleid mun ke'eli-de-ce ese'u torele'ai ta
いそぐのか 温き処 から 忽然と その 腹 から 生れたのではないか 汝等は

qala'un-aca qalad qaqca qaqunaq-aca ese'u qarula'a ta——中略——ke'eba.
熱き処 より 忽然と 唯一の 胞 から 出たのではないか 汝等は ..... " と云った。

次に (5), (6), (7) に移る。(5) はヂャルチダイなる身分の卑しい老人——蒙古語 jarci は「下僕」の意——がテムヂンに向って云った言葉であり,そこに用いられている -le'e と -la'a はヂャルチダイが自分の行為を述べた述語動詞 (ogu-le'e と odu-la'a) の語尾として使用されている。(6) の文章はボオルチュ——後にテムヂンの親友となり,成吉思汗側近の重臣となった——が父のナコ・バヤンに対して云った言葉であるが,此処に見える -la'a も,ボオルチュが自分の父に対して,自分の行為を述べた述語動詞 (odu-la'a) の語尾として用いられている。(7) の qaru-la'a の -la'a は正しくは -la'ai とあるべきであろう (複数の主語に対して用いられているから)。現に,その上の tore-le'ai ta (生れた,汝等は) には -le'ai なる複数形が用いられている。さて,此の -la'a は成吉思汗の重臣ココチォスがチアダイ (成吉思汗の第二子) に向ってチアダイの非を戒めている文章の中に現われている。即ち話し手が話し相手の行為を述べた述語動詞の語尾として用いられている。

以上の三例から帰納し得ることは,次の原則である。即ち

原則 ② 話し手 (劣)→話し相手 (優) の線で取りかわされる会話文に於ては,話し手が自分の行為について述べた述語動詞の語尾にも,話し相手の行為について述べた述語動詞の語尾にも, 共に -la'a/-le'e を用いる。

此の原則 ② は話し手と話し相手の優劣が原則 ① の場合と入れ変ったもので,原則として**常に -la'a/-le'e を用いる**。此の点が,日本語の敬語法と異る所である。併し,話し手が自分の行為を特に卑下して述べる場合には -lu'a を用いる事もある。

8. (一42八, 48一) Dei secen ugulerun Yesugai quda ken-dur joriju
デイ セチェン 曰く イエスゲイ 親族 誰の処を 目ざして

ayisu**la'a** ke'eju'u Yesugai Ba'atur ugulerun ene ko'un-u minu naqacu-nar
来たのですか と云った イエスゲイ バートル 曰く この 子 の ← 私の 母舅 達の

Olqunud irgen-dur oki quyusu keyen ayisu**lu'a** ke'eju'u
オルコノッド の民の処に 嫁を 求めよう と 来たのです と云った

9. (八22三) Cinggis qahan ugulerun.....Jamuqa anda ci buru'uya bulqa
チンギス 同汗 曰く ヂャムカ アンクよ 汝は ことさらに 争を

koyidcu ireju Dalan Baljud-ta qadqulduju Jelen-e qabciqai-a qorgoju namayi
起し 来て グラン バルチュドで 戦い ヂェレネ 谷間 に 追い入れて 私を

tende ese'u ayu'ulu**la'a** ci.....keyen
そこに 恐れさせなかったか 汝は.....と云って

では (8) (9) に移る。例 (8) は親族同志であるデイ・セチェンとイェスガイ・バートル (テムヂンの父) との間で交わされた会話文である。デイ・セェンは当時のオン

ギラット部族の長であり，イェスガイもボルヂギン族の長である。そのデイ・セチェンがイェスガイに対し，「誰を目指して来たれるか (ayisu-la'a)」と -la'a を用いて尋ねた。従って，此の -la'a は原則 ② の場合と一応考えられる。原則 ② の話し手と話し相手との関係は「劣→優」のそれであるから，イェスガイの方から見れば，当然，(優)→(劣) の関係になる。それ故，原則 ② に従ってイェスガイはデイ・セチェンの間に ayisu-la'a と答えて然るべきである。然るに，イェスガイは ayisu-lu'a で答えた。此は何故か。此の疑問に答えるのは比較的容易である。人間の身分関係には，(優)→(劣)，(劣)→(優) という関係の他に，対等の関係がある。デイ・セチェンとイェスガイ・バアトルは，此の「対等の関係」にあったと見ることによって上の疑問は解決される。即ち

原則 ③ 対等関係にある話し手と話し相手との間に取りかわされる会話文に於ては

話し手が話し相手の行為を述べた述語動詞の語尾には -la'a/-le'e を用いる

話し手が自分の行為を述べた述語動詞の語尾には -lu'a/-lu'e を用いる

を規定し得る。此は例 (8) に於て支持される。例 (8) は成吉思汗が盟友ジャムカに対して云った言葉であるから，一応 (優)→(劣) の線上の会話文と見られよう。此の線上の会話文と見れば，原則 ① に従って，ayu'ul-u-**lu'a** の如く -lu'a が現われるべきである。然るに，此処には ayu'ul-u-**la'a** と -la'a が出ている。此は，成吉思汗とヂャムカとの関係が (優)→(劣) の関係でなく，「対等の関係」であることを物語っている。(成吉思汗とヂャムカの関係を (劣)→(優) とすれば，原則 ② に従って，此処に -la'a が現われる。併し，此の文献に於ては，成吉思汗はいかなる者に対しても劣位に立つという事は考えられないし，その様な文例は見られない。勿論，テムヂンと呼ばれていた幼年時代には相手に対して劣位に立つ場合は屢々見られる)。 対等の関係と考えれば，上の原則 ③ によって，此処に -la'a が用いられているのは当然である。では次に移ろう。

10. (土16六, 17一) Tende Cinggis qahan Onggür Arqai Qutugu qurban-
そこで チンギス 同汗は オングル アルカイ コトコの 三人

aca Qada ya'u ogba keyen asaqba Sigi Qutuqu ugulerun altatai qartai a'urasu
から カダが 何を 与えたかと 尋ねた シギ コトコが 云う 金の 紋のついた調度を

abciraju ogl**u'e**, bi ugulerun urida ene Jungdu Altan qan-u-ai aju'u-je,
持って来て 与えました(そこで)私が云ったのです 以前は 此の 中都は アルタン 汗 のものだったのだ

edo'e Cinggis qa'an-u-ai bolba-je, ci Qada Cinggis qa'an-u ed ecine'un qulaqcu
今は チンギス 可汗 のもの となったのだ 汝 カダは チンギス 可汗 の 物を かくれて 偸み

yekin ogumu ci ke'eju bi ese abuba Onggur Arqai qoyar ogugsed-i inu
どうして 与えるのか 汝は と云って 私は 取らなかった オングル アルカイの 二人は 与へたのを←彼の

abu**la'a** ke'eba
取りました と云った

11. (八28三, 五) Sigiqutuqu ugulerun Bo'orcu Muqali-tan ken-ece hule'u
シギコトコ 曰く ボオルチュ モカリ 達は 誰 より まさって

tusa kile'e ken-ece hule'u gucu ogule'e, soyorqal ogdegui-a bi ya'un
益をしたでしょうか 誰 より 余計に 力を 与えたでしょうか 恩賞が 与えられる時 私は 何か

duta'u tusa ese bolula'a ya'un duta'u gucu ese ogule'e.....ke'eju'ui (成吉
かけて 益にならなかったでしょうか 何か 足りず 力を与えなかったでしょうか と言った

思汗の家臣, シギコトコが成吉思汗に云った言葉)

12. (七25三) Soni Naiman-u qara'ul qangqairqan-u teri'un-ece soni olon
夜 ナイマンの 斥候は カンカイルカンの 頂 から 夜 多くの

qal ujeju.....Tayang qan-dur.....Mangqol-un ceri'ud Sa'ari ke'er-i butetele
火を 見て タヤン 汗 に モンゴル の 兵士達は サアリ 草原 を うめるほど

ba'ulu'a.....ke'eju ileju-ui. (乃蕃部の斥候がタヤン汗に云った言葉)
宿営した と云って 遣った

13. (四49五, 七) Basa Cinggis qahan ugulerun minu jebelegu aman caqan
又 チンギス 可汗が 云うには 私の 戦う 口の 白い

qula-yin aman niri'u inu ququ ken qarbula'a a'ula de'erece ke'eba. tere uge-
黄色い馬の 口 骨を ←そのグザと誰が 射ったか 山の 上から と云った その 言葉

dur Jebe ugulerun.....bi qarbula'a.....ke'eba.
に ヂェベが 云った 私が 射りました と云った

(例) 10 の ogu-lu'e, abu-la'a が用いられている文は成吉思汗に対して, 臣下のシグ・コトコが言上している会話文である。従って, これは (劣)→(優) の線上の会話文である。此処ではシギ・コトコがカダの行為を述べた述語動詞の語尾に -lu'e が用いられ, オングルとアルカイの行為を述べた述語動詞に -la'a が用いられている。シギ・コトコにとってオングルとアルカイは同僚であるが, カダは目下の者である。又, 例 11 もシギ・コトコが成吉思汗に対して言上した会話文である。此処に用いられた ki-le'e, ogu-le'e の -le'e もシギ・コトコがボオルチュとモカリの行為を述べた述語動詞に接尾されている。ボオルチュとモカリはシギ・コトコの長上者である。更に例 12 の ba'u-lu'a はナイマンの斥候がナイマン皇帝のタヤン汗に言上した文 (即ち (劣)→(優) の線上の会話文) の中に見られる。此の ba'u-lu'a の -lu'a はナイマンの斥候が彼等にとっては敵のモンゴル兵士達の行為を述べた述語動詞の語尾として用いられている。以上の三例から次の原則 2′ を導き得る。即ち

原則 2′ 話し手 (劣)→話し相手 (優) の線上の会話文で, 話し手が第三者の行為について述べる場合,
その第三者が話し手である自分より劣位にあれば, その人間の行為を述べた述語動詞の語尾には -lu'a/-lu'e を用い, その第三者が話し手である自分より優位にあるか, 或は対等であれば, その人間の行為を述べた述語動詞の語尾には -la'a/-le'e を用いる。

此の他, 今までの考察から次の原則 1′ を容易に帰納し得る。即ち,

原則 1′ 話し手 (優)→話し相手 (劣) の線上の会話文で, 話し手が第三者の行為について述べる場合,
その第三者が自分より優位にあれば, 又, 自分より劣っていても,

話し相手より優位にあればその人間の行為を述べた述語動詞の語尾には -la'a/-le'e を用い，その第三者が自分及び相手より劣位にあれば，その人間の行為を述べた述語動詞の語尾には -lu'a/-lu'e を用いる。

此の原則 1′ に相当する用例は殆ど発見出来なかったが例 (13) が之に当ると解釈し得る。例 (13) の第一の qarbu-la'a の -la'a は成吉思汗が捕虜の兵士等に向って述べた会話文（従って（優）→(劣) の線上の会話文）の中に見られ，成吉思汗が第三者 ken（誰）の行為を述べた述語動詞に接尾されている。此の ken（誰）は勿論成吉思汗より劣位者であるが，成吉思汗にとっては自分の馬を射った程の者は並いる他の捕虜連よりは優れた人間と考えられた。此の様な考え方は，当時の戦乱に明け暮れたモンゴル人にとっては極めて自然である。従って，此の -la'a は「自分より劣位にあっても，相手より優位にある」者の行為を述べた述語動詞の語尾として用いられたものと見做し得る。(此の例を，私は第四十三回言語学大会で，例外であると述べたがその際，服部四郎先生から有益な御教示を受け，改めて考えて上の結論に達したものである。)

14. (七 44 五) Tayang-un eke Gurbesu-yi Cinggis qahan abcira'ulju ugulerun
タヤン の 母 グルベス を チンギス 可汗 つれて来させて いうのに
ci Mangqol-un hunir mau'ui ke'eju ese'u bule'e edo'e yekin ireba ci ke'eju
汝 モンゴル の 匂は 悪い と云って いた ではないか 今 どうして来たか 汝は と云って
Cinggis qahan abu**la'a**
チンギス 可汗は 取った。

15. (五 28 六) Yedi Tulug neretu noyan inu qara'ul yabuju bidan-u qara'ul-a
イエデイ トゥルック という 官人は←彼の 斥候に 行って 吾々 の 斥候 に
huldegdeju a'ula o'ede tuta'aqu bolon olang-niyan tasuraqdaju tende bariqda**lu'a**
追いつかれて 山 に向って 逃げよう として 肚帯を 切られて そこに 捕えられた

今までの例は総て会話文中に於て用いられたものであるが，次の二例は普通の記述文に於ける -la'a, -lu'a の例で，元朝秘史全巻を通じて，三例見られるのみである。例 (14) の abu-la'a の主語は「成吉思汗」であり，例 (15) の bariqda-lu'a の主語はナイマン部の斥候である。此の事は，今までに述べて来た -la'a と -lu'a との用法上の相違から考えて至極当然であって殆ど説明の用はあるまい。成吉思汗は一天万上の大可汗であり，ナイマン部の斥候は身分卑しい一兵士である。成吉思汗に対して -lu'a を用いず，ナイマンの斥候に対して，-la'a が使われていないのは今迄の原則から十分考えられる処である。

以上，随分長々と述べたが，-la'a/-le'e と -lu'a/-lu'e との関係について結論的に云い得ることは「-la'a/-le'e は優位者に向けられる語尾であり，-lu'a/-lu'e は劣位者に向けられる語尾である」ということである。此の前者 -la'a/-le'e を「指上形」，後者 -lu'a/-lu'e を「指下形」と呼ぶことにする。「優位者（劣位者）に向けられる……」の「向けられる」とは，例えば（優）→(劣) の線上の会話文で，話し

手が自分の行為を云々する時，その行為を述べた述語動詞の語尾 -la'a/-le'e は，話し手である自分という優位者の行為に向けられた語尾であり，又，(劣)→(優)の線上の会話文に於て，話し手が自分の行為を述べた述語動詞の語尾 -la'a/-le'e は，話し相手である優位者に向けられた語尾であると云い得るからである。対等関係の場合にも，「優(劣)位者に向けられる……」という表現は支障を来さないと考えられる。日本語の敬語法とは異る点があるので，私は一応，「指上形」「指下形」——此の呼称は誤解を招く恐れもあるので，余りよい呼び名ではないと思うが，適当な呼び名が見つからないので——と呼ぶことにした。

此の「指上形」「指下形」という概念を他の語尾群中の二系列，例えば -mui～-mu, -ju'ui～-ju'u 等々にあてはめて考えて行きたい。

§3.3 -la'ai/-le'ai 及び -lu'ai。

-la'ai/-le'ai は -la'a/-le'e の plural form, -lu'ai は -lu'a/-lu'e の plural form であることは以下の例から明かである。

1. (五9五) tende Tumen Tubegan Olon Dungqayid butaraqsan Kereyid
そこに トウメン トウベガン, オロン ドウンカイド, 四散した ケレイトの
irgen ber Cinggis qahan-dur oroju ire'**ule'ai**
民 も チンギス 可汗の処に は入って 来た。

2. (十8六) basa Burhan qan ugulerun Cinggis qa'an-u nere aldar sonoscu
又 ボルハン 汗が 云うには チンギス 可汗 の 名 名声を 聞いて
ayuju **ala'ai** ba
懼れていました 吾々は。

3. (四18九) Cinggis qahan masi kilinglaju ugulerun Jurkin-e ker eyin
チンギス 可汗は 非常に 怒って 云うには ヂュルキンに どうして この様に
kigden bu**le'ai** bida
されて いたのか 吾々は

4. (六22六) Jorqalqun-u hula'anud Bolda'ud-ta bida ese'u ugule**ldulu'ai**
ヂョルカルコンの ホラーノット ボルダウト山で 吾々は 云い合わなかったか

5. (十30八,九) erte Altan Qucar qoyar ene metu uge baralduju jici uges
かつて，アルタン コチァルの 二人は この 様に 約束し合って その上 言葉に
tur-iyan ulu gurgu-yin tula ker kigde**lu'ai** yambar bolqaqda**lu'ai**
←自分達の 到らなかった ので 如何に なされたか どの様に されたか

例 (1) から (3) までは -la'ai/-le'ai の例であり，(4) (5) は -lu'ai の例である。五例とも総て複数の主語を持っていることは上例から明かであろう。(2) (3) (4) は ba「吾々」(exclusive), bida「我々」(inclusive), (5) はアルタン，コチャルの二人 (1) はトウメン・トウベガン (万のトウベガン)，オロン・ドウンカイト (多くのドウンカイト)，四散した民 (irgen "民" という語は文法的には複数扱い) がそれぞれ主語である。それ故，此等の述語動詞の語尾もそれぞれ -la'ai/-le'ai, -lu'ai の如く複数形が現われている。

§3.4 -ligi～-liyi 及び -leyi。

-ligi～-liyi は -la'a/-le'e, -lu'a/-lu'e の feminine singular form であり，元朝秘史蒙古語のみに見られる形である。 -leyi は同じ女性形であるが「指上形」であろ

う。これは "Lettre d'Argun au pape Nicolas IV" の中に büleyi として発見されるのみである。

1. (二 37 五) gergei inu Borte Ujin-u eke Cotan neretai **buliyi**
妻 ← 彼の(即ち) ボルテウヂンの 母は チョタンなる名をもって いた。

2. (二 11 四) Ujin eke qoyar ko'uked-u-yen cirai uqaju ugulerun
ウヂン 母は 二人の 子供達の←自分の 顔色を 見て覚り 云うには

baraqsad qala'un-aca minu qalad qarurun qar-dur-iyan qara nodun hadqun
お前達は 熱き処 から ← 私の 忽然と 出づる時に 手 に←自分の 黒い 血塊を 握って

toreligi.....後略。
生れた

3. (L.A. 1290) LIO. Sayin ecige manu Misiq-a-in nom ünen-ü tula. sayin
よき 父 ← わが ミシカ の 教は 真実 の 故に よき

emege-yi ba silamtai kü **büleyi** keme[n].....後略。
祖母 は また キリスト教をもつにぞ なれり と

(1) の buliyi は問題なかろうが，(2) の toreligi はその主語は女性ではない。併し，これはウヂン・エケ（夫人なる母）の云った言葉である。それ故，女性形が用いられた。此の他女性形は，必ずしも主語が女性に限るというわけではなく，その文章に女性自身，及び女性に関係ある何かが現われている場合には用いられている。後段 -bi の項でふれる機会があると思う。(3) の büleyi は此の一例のみしか発見出来ないが，emege-yi の -yi は主格表示の -yi であるから，女性形と見做すべきである，Mostaert 師は此の büleyi に註を附している。p. 460. Büleyi. Praesens perfecti de bü- "être". La forme büleyi est une forme dialectale correspondant à bülüge ～ bülügei; bülege ～ bülegei du mongol écrit. 後略」。師は bülüge ～ bülügei 等に対応する方言形とされているが，之は女性形と見るべきである。此の -leyi は秘史には見られないから貴重な一例である。

以上によって -la'ai/-le'ai 系の語尾群の検討を終えたが紙数の制限があるので，以後の語尾群の検討は極度に用例を限らねばならない。此の点，御寛恕ありたい。

§ 4.$_1$ -mu, -mui, -mi (present form)

此の系列の語尾群は present tense を示す最も一般的な語尾である(1)。大まかに言って，-mu は男性単数形，-mui は男女性複数形，-mi は女性単数形であると規定し得る。女性単数形の -mi は今まで中世蒙古語の諸文献の何処にも発見し得なかったが，所謂 "ライデン語彙" に見られる qarmi "出る" は此の -mi を持った形と私は見做している。Poppe 教授は，此の qarmi に？を附して，他に何の言及もなされていないが，中世蒙古語の諸語尾群を体系的にとらえた場合，-mi を女性形と考えることはむしろ当然であろう。

さて，-mu は元朝秘史十二巻の中に 60 例見られ，男性単数形という観点から見て，例外と見做されるものは 3 例あるが，その中の 2 例は「指下形」と解し得るから，純粋の例外は 1 例のみである。従って，-mu を男性単数形と規定することに問題はない。

-mui は秘史全巻中に，62 例を見出し得る。その中で，一見して複数形と見做し得るもの 21 例，文章の前後の関係から複数形と見做し得るもの 22 例，指上形と見做し得るもの 17 例，例外と見得るもの 2 例である。複数形及び複数形と見做し得るものを合わせると 43 例で総数の約 $\frac{2}{3}$ であるから一応 -mui は -mu の複数形と規定することは無理ではなかろうが，残りの 15 例は，どの様に考えても複数形とは見做し得ない。$\frac{1}{3}$ の例外は無視出来ない，此処に私は -mui をすぐに複数形と規定し得ない理由を従来から持っていた。然るに上述の「指上形」という概念を此処にも適用することに依って，此の所謂例外の 15 例を処理し得た。-mui という同一の form が二つの異った職能の下に用いられていた事が，此の語尾の性格の決定を遅らせたものと云えるであろう。尚，上の類別（複数形 25 例，複数相当形 22 例，指上形 13 例，例外 2 例）は，その類別規準を「複数形」という観点から見たもので，之を「指上形」という観点から見直せば，此の数は異ってくる。複数形であると同時に指上形である例が可成り存するからである。

以下に -mu 及び -mui の用例を示す。-mui は複数形と指上形の例を示すことにした。

§4.$_2$ -mu (60 例)

1. (一9五) Dobun Mergan ya'un gu'un ci keyen asaqu'asu tere gu'un
ドブン メルガンが 如何なる 人か 汝は と 問うと その 人が
ugulerun **bi** Ma'aliq Baya'udai yadaju yabu**mu** tere gore'esun-u miqan-aca
云うには 私は マアリック バヤウダイです，困って います。 その 獣 の 肉 を
nada og...ke'eju'u.
私に 下さい と云った。

2. (七7二) ene kele ire'ulu'ed Cinggis qahan ugulerun Uru'ud-un
この 言葉を 来させて チンギス 可汗が 云うには オロオド の
Jurcedai ebin **ci** ya'u ke'e**mu** cimayi manglailaya ke'eba.
ヂュルチェダイ 伯父よ お前は 何 と云うか， お前を 先鋒としよう と云った。

3. (四39五) Cinggis qahan dotora'an serguju ugulerun cisun (q)a(d)cu[3]
チンギス 可汗 内で(意識が) 醒めて 云うには "血が 乾き
baraba unda'asu**mu bi** ke'eba
きった 渇いている 私は" と云った。

(1), (2), (3) の例に於て，-mu が男性単数形である事は明かである。(2) の -mu は単数形であると同時に指下形でもある。(3) の unda'asumu は成吉思汗が自分の行為について述べているのであるから，本来なら指上形で -mui が現われる処であるが，此処では -mu が使われている。単数という点から見れば，勿論例外ではないが，指上形という点から見れば例外である。

§4.$_3$ -mui (63 例)

1. (二10一) Begter uje'ed ugulerun.....中略.....namayi yekin nidun-u
ベクテルが 見て 云うには 私を どうして 目 の
surimusun aman-u qaqasun bolqa**mui ta**.....後略.....ke'e'ed
まつ毛 口 の とげ とするのか お前達は と云って

2. (六 3 四) Jamuqa ugulerun tende Uru'ud Mangqud keyen irgen inu bui
ヂヤムカが 云うには "そこに オロオド マンゴッド と云う 民が←彼の いる,
tede irgen inu qadquld**umui**-je.....後略.....ke'eju'ui
彼等民は ← 彼の よく戦います ぞ ....." と云った

3. (八 11 一) bidan-i ecin-e ber bo'esu ile metu qolo ber bo'esu oyira metu
我々 を, かげにあっても向い合っている様に 遠 く にあっても 近くある様に
sedkiju yabu'asu de'ere tenggeri-de ber ihe'egde**mui ta** keyen jarliq bolba.
考えて 行けば 上 天 に も 加護される お前達は と 勅した。

4. (二 12 六) Taiyicud aqa de'u-yin qasi'un dau'usun yadan bukui-dur haci
タイチョッド 兄 弟 の 苦しみが 終り 得ず ある に, 仇を
ken-e aburaqun-u ke'eju bukui-dur ker aya keyen eyin kildu**mui ta** keyen...
誰に 報いるべきか と云い ある に "いかで過さん" とて かく 為しあうや 汝等 と云って

5. (七 10 七) edo'e **noqan-u da'un** idurekui qucal quca**mui**.
今 犬 の 声は (悪の)迫る 吠えを 吠えている

以上の例は，複数形の -mui の実例を示したものである。例 (1)(2)(3)(4) は主語が共に複数で，別に説明の要はなかろうが，(5) の場合は説明を要する。(5) の文の主語の da'un "声" は複数形ではない。(併し，da'un の auslaut の -n を複数語尾と見られないこともないが。) ところが，その前にある noqan-u "犬の" の noqan は noqai "犬" の**複数形**であることはすでに実証されている。この様に，主語が必ずしも複数の言葉でなくても，それを限定する語が複数形であったり，或は目的語が複数形であったりする場合にも動詞の語尾が複数形をもつ事はよく見られる。丁度，女性形の語尾が，主語が女性である時に限らず，女性の話した言葉の中で用いられたり，女性に関する限定語が主語や目的語を修飾したりしている時にも用いられるのと同様である。女性形に関する諸例は -bi の項で言及される筈である。尚，-mui が「複数形と見做される」場合のことを附け加えねばならない。例えば -mui の用例中，第一位を占める ke'egde-mui "～といわれる" (10 例) は総て "...との由" の意で「**人々によって～といわれている，人々は～と云う**」の意を示すもので，従って此の -mui は複数を示す形であると私は考えている。このことは ke'egde-mu なる**単数形が一例も見られない**ことからも十分な根拠をもっている。(三 34 四, 五 に ke'egdemu ci "～といわれているぞ，お前" という例が二例だけ見られるが，これは或る特定の人から "お前は～だといわれているぞ" の意で，今，問題にしている "～とのことだ，～との由" という場合とは明かに異る。) 次に指上形として用いられた -mui の例を若干示そう。

§4. **-mui** (指上形の -mui)

1. (三 22 六) Cinggis qahan jarliq bolurun.....中略.....ko'ud-un minu aqa
チンギス 可汗 勅して 曰く 子等 の ← わが 兄は
Joci bui-je ya'u ke'emu ci kelele ke'eba Joci-yi dungqodqu-yin urida Ca'adai
ヂョチ なるぞ 何 と云うか 汝は "云へ" と云えり ヂョチが 言上する の 前に チャアダイ
ugulerun Joci-yi kelele ke'erun Joci-yu'u tusin ugule**mui**...
曰く ヂョチを "云へ" と云わるるは ヂョチをか 信頼して いわれるか

2. (七 14 七) Alaqusi Digidquri Yoqunan neretu elci-yer-iyan Cinggis
アラコシ デギドコリが ヨコナン という 使をもって チンギス

qahan-a uguleju ilerurun Naiman-u Tayang qan qor cinu abura iremui
可汗 に 云って 遣るには "ナイマンの タヤン 汗は 俺儞を←汝の 取りに 来ます

3. (八 21 六, 七, 八) Cinggis qahan ugulerun anda minu anggida ber yabuju
チンギス 可汗が 云うに, アンダ(盟友)は←わが はなれて 行っても

bidan-dur ama du'uren keleleju amin-dur qor sedgigu-yi inu ese sonosdaba-je,
吾々に 対し 口 一杯に 云って 命 に 害を 考えることを←彼の 聞かれなかったのだ,

surdaqu gu'un bule'e mun ulu bolumui uku'uluye ke'esu tolge-dur
学ばるべき 人 だ(而るに) 彼は(生きることを) 肯んじない, 殺そう としても 卦 に

ulu oromui silta'an ugei amin-dur qor ki'esu ulu jokimui kundu mortu
は入らない, 理由 なく 命 に 害を すれば 適当ではない, 尊敬すべき 道をもてる

gu'un bui...
人 である

上の三例に見られる -mui は複数形と見做すことは出来ない。之は指上形と考えるべき例である。先づ (1) の ugulemui であるが, この ugulemui は, 成吉思汗の次子のチヤアダイが成吉思汗に向って云った言葉の中に使われている。(劣)→(優)の線上の会話文に於て, 話し相手の行為を述べた動詞の語尾として -mui は使われている, これは丁度, 前項の -la'a/-le'e に当るわけで, 従って, 此の -mui は指上形と見なければならない。此の例の中には, 又, 指下形の -mu も見えている。即ち, 成吉思汗が長子のヂョチに対し, 「お前は何と云うか (ya'u ke'emu ci)」と述べている。これは (優)→(劣) 線上の会話文で話し手が話し相手の行為について云々したものであるが, 前項の -lu'a/-lu'e に当るわけで, 此処では -mu が用いられている。此の様に -mu と -mui とは単・複という職能の他に, -la'a/-le'e 対 -lu'a/-lu'e の関係と同様な関係, 即ち「指上」「指下」という職能を有っていたのである。(2) の iremui は (劣)→(優) の線上の会話文に於て, 話し手が第三者 (此処ではタヤン汗) の行為を述べた述語動詞として用いられている。これも前項 §3$_2$ に述べた原則 2′ によって指上形が用いられるから -mui が使われねばならない。(3) は成吉思汗が義兄弟 (anda) のヂャムカについて述べている文章である。成吉思汗とヂャムカとは対等の関係にあったという事はすでに述べた通りであり, 従って, 此の場合も前項 §3$_2$ の原則 3 の適用によって -mui が用いらるべきである。此の他, 指上形と見られる -mui は 12 例見られるが, いづれも §3$_2$ に於てたてた原則によって解決し得るものである。

§5.$_1$ -yu, -yi

-yu は Poppe 教授によって deductive present と呼ばれている語尾であるが, 中世蒙古語では, -yu の他に -yi が少数ではあるが実証される。-yu は中世蒙古語では単数にも複数にも用いられているが, これは期待される -*yui 又は *-yai なる複数形が存しないためであろう。元朝秘史蒙古語の「備由, 脩由, 不由 (buiyu, buiyu, buyu)」が蒙古文語の buyu に該当することはほゞ確実であろうが, 文語の buyu は bu-yu と bui-yu を表わした可能性が十分にあるので, 全部が全部文語の buyu に当ると見るのは危険である。文語の buyu も, 秘史の備由, 脩由, 不由も

動詞 bu- "to be" に語尾 -yu の接尾した形と見做し得る。秘史には備由 41 例，愊由 9 例，不由 1 例合計 51 例が見られ，-yu を持つ語例の総数 92 例中の中ば以上を占めている。-yi は秘史全十二巻の中から僅か二列しか発見できなかったが，私の調査もれがあるかも知れない。以下に -yu と -yi の用例を示す。

§5.₂ -yu (92 例)

1. (一 45 七) nu'un ko'ud man-u nutuq qarayu okin ko'un man-u
男の 子達は ← 吾々の ノトックを見ることになっている，女の子は ← 吾々の

ongge ujegdeyu.
容色を 見られることになっている

2. (五 13 二) tende Wang qan-u de'uner noyad ki'ed uguleldurun ene qan
そこに ワン 汗 の 弟達， 官人達 等は 云い合って云うには 此の 汗

aqa bidan-u uge'u aburitu humegai helige eburidcu yabuyu.
兄は ← 吾々の 乏しい 性で 慕臭ある 肝臓を いだいて いるのだ

3. (四 50 四) Cinggis qahan ugulerun daiyisun yabuqsan gu'un alaqsan-iyan
チンギス 可汗が 云うには "敵として 行った 人は 殺したこと を

daisurqaqsan-iyan beye-yen ni'uju kele-ben bucaju ayu...
敵対したこと を 自分で かくして 話 を ひかえて いるものだ...

以上の三例の中，(1) の üjegdeyu の主語は okin ko'un (女の子) であるから女性形の -yi が用いられて然るべき個所かと考えられるが残念ながら -yu が出ている。qarayu の主語は男性複数であるから，-yu は単複の数の区別なく用いられたと云えよう。

§5.₃ -yi

1. (一 35 八) tende ho'elun ujin ugulerun tede qurban haran-i uqaba'u ci
そこに ホエルン 夫人が 云うには 彼等 三人の 人々 を 気づいたか 貴方は，

cirai cirai-aca busud bui amin-tur cinu gurki ciraitan bui amin ele cinu
顔色は (常の)顔色から 異って いる 命 に←貴方の 到る 顔つき です 命 さえ←貴方の

bo'esu oljige tudum okid qara'u tudum qatud bui amin ele cinu bo'esu oki qatu
あれば 車の前室 ごとに 乙女等 黒馬 ごとに 后等が いる 命 さえ←貴方の あれば 娘 后を

oluyi-je ci...
得るものです 貴方は

2. (七 7 一) tere uge-dur eme inu ugulerun eme gu'un noqai ni'urtai
その 言葉 に 妻が←彼の 云うには 女の人は 犬の 顔をもつ

ke'egdeyi-je bi...
といわれる 私は

此の二例が -yi の用いられた例である。(2) の ke'egde-yi "～といわれるものだ" の主語は eme gu'un "女の人" であるから問題はないが，(1) の olu-yi の主語は ci "汝" でホエルン夫人の夫たるべきチレドを指している。此は先に述べた様にホエルン夫人の述べた言葉の中に用いられているので，女性形が使用されたものと解すべき例である。此の -yi は中世蒙古語の内容の豊かな文献がかりに将来発見される様なことがあれば，更に多くの用例を吾々は持ち得るであろう。

§6.₁ -u, -uyi, -ai, -i

元朝秘史蒙古語には，ayisu, ayisai, ayisi なる形が見られ，又，bolu, boluyi,

boli なる形も見られる。此等の形から -u, -ai, -uyi, -i なる語尾を帰納し得るが，他の中世蒙古語の諸文献では，此等の形は殆ど見られず，僅かにパスパ字蒙古語資料の中に，boluyi に当る bolué という形が見られるのみである。文語には ayisui が見られ，この語は現在の若干の蒙古語の方言間に残っているが，余り使われない様である。

さて，秘史蒙古語に於ける上記の諸形の用例をよく調査して見ると，此等の語尾群はそれぞれ雑然と独立しているものではなく，一系列をなす語尾群であることが明かになった。その結果は，-u が男性単数，-ai が男性複数兼指下形，-i が女性単数という事であるが，-uyi は三例のみしか発見出来ず，はっきりした事を云えないが，恐らく男・女複数形兼指上形であろうと思う。

ayis-u 15 例，ayis-ai 8 例，ayis-i 7 例，bol-u 3 例，bol-uyi 3 例，bol-i 3 例，ayu'ul-u 1 例，dobtul-ai 1 例，以上が此の語尾群の秘史十二巻に於ける総例である。В.Я. Владимирцов 教授や N. Poppe 教授は此等の形を形動詞としているが，秘史蒙古語に関する限り attributive に使われている例は一例も見られないし，又，その他の文献に於ても attributive に使われた例を私は未だ見てないので，此の形は形動詞よりも終止形の語尾と見做した方がよいと私は思う。此の語尾の表わす意義素については，従来研究がなされておらず，たゞ present の語尾とされているが，単に present の語尾でなく，「ある動作が現に行われつゝあり，その動作が未来に於ても引続き行われる」という意義素を表わすものと私は思う。

尚，boluyi に関しては，bol-uyi ではなく，§5 で述べた -yi が接尾された形 (bolu-yi) ではないかということが考えられるが，boluyi の三例を考察すると，女性形の -yi とは考えられないし，又，パスパ文字蒙古語の中に bolué (bol-ué) が見られるから，bol-uyi と考えるべきと思う。此の語が bolui でなく boluyi で表われているのは，蒙古語の -lui を表わす漢字が殆どなく，秘史では「雷」一字のみしか用いられていないという事実(1)と関係があろう。「孛雷 bolui」でなく，「孛魯亘 boluyi」で書かれているのは，「雷」が意味的に余りふさわしくない文字だからだと思う。元朝秘史の音訳漢字の用法は，単に音声面からのみではなく，その語の表わす意味と漢字との関係を十分に考慮に入れなければならない事はすでに指摘されている処である。では各語尾の用例を示そう。

§6.$_2$ -u

1. (六 11 十) udur gegeyen bolqaju uje'esu qoyinaca **nikan** **gu'un** ayisu
日が 明るく なりて 見れば 後より 一人の 人が 近づき来る
gurcu ire'esu Bo'orcu aju'u
到り 来れば ボオルチュ なりき

2. (七 46 二) Dayir Usun ugulerun ene oki-yan Cinggis qahan-a uje'ulsu
ダイル オソン 曰く この 娘を(自分の) チンギス 可汗 に 見せよう
ke'yen ayisu **bi** ke'eju'ui.
と やって来てる 私は と云った

3. (三34九) Orusud irgen-i qaqca'ar oro'ulugsan metu sedkiju omoq dura
オロスォドの 民 を たゞ一人にて 下した 如く 考え おごれる 心を

bariju aqa gu'un-dur dayisurqan ayisu **ci**
持して 兄 者 人 に 逆き 来る 汝は

以上の三例は ayisu 15 例中の 3 例である。ayisu の主語は共に単数の実詞であり，(3) の例は，単数形であると共に指下形である。(此はオゴタイ汗がグユクの行為を怒って叱責した言葉である)。他の 13 例も例外はない。

4. (六21六) qan ecige-de minu ugule keyen ugulerun……中略……ayu'ulqu
汗なる 父 に←吾が 云え と 云うには "恐れしむる

bo'esu ma'un ko'ud-iyan ma'un berined-iyan nuir qanqan yekin ulu ayu'ulu
ならば 悪しき 子等を(自分の) 悪しき 嫁等を(自分の) 飽眠せしめ いかで 恐れしめざる

ci
汝は"

5. (三32二) ene uge-dur Cinggis qahan jarliq bolurun **Ogodai** eyimun uges
此の 言 に チンギス 可汗 勅して曰く "オゴダイが かゝる 言を

ugulegu bo'esu **bolu**-je ke'eba
言う ならば よかろうぞ" と云った

6. (三3三) Cinggis qahan ugulerun Tangud irgen bidan-i juruge yadaju
チンギス 可汗 が云うには "タングッドの民は 吾等 を 心 臆して

qariba ke'ekun bida elcin maqa ileju elcin-i mun ene Co'orqad-ta sobilaju
帰れり と云わん，吾等は 使者 でも 遣わし 使者 を まさに 此の チョオルカッドにて 見守り，

uge anu uqaju icu'asu bolu-je ke'eju...
言を←彼等の 知りて 退かば よからんぞ と云って

(4) の ulu ayu'ulu ci は成吉思汗が王罕に向って云った言葉の中に使われている。成吉思汗は最初は王罕に臣事したが，後，王罕から成吉思汗に敵対したため，最後は，成吉思汗によって滅されるが，上の言葉は，その過程に於て，成吉思汗が王罕及び息子の桑昆の非行をなじった言である。それ故，指上形の -uyi でなく，指下形の -u (ayu'ulu-u) が用いられていると解し得る。(5) は成吉思汗が第三子オゴタイ (後のオゴタイ汗大宗) に向って，相手の行為について述べた言葉であるから，bol-u の如く単数兼指下形が用いられている。(6) は成吉思汗が「吾々」の行為を述べているのだから，bolu-je は boluyi-je とあって欲しい処である。此は例外と見做さねばなるまい。

§6., -uyi, -ai

1. (四19七) edo'e basa daiyisun-dur siqan daiyisun mud **boluyi** ke'e'ed
"今 又 敵 に 近づき 敵と 彼等は ならんか と云いて

Cinggis qahan jurkin-dur morilaba.
チンギス 可汗 デュルキンに 出馬せり

2. (八8一，二) qajar-un qola-yi sedkiju cerig-un ula'a turu'ai udu'ui-a
地 の 遠き を 思いて 軍 馬 いまだやせざるに

qayiraladqun gunesu-ben bara'ai udu'ui-a quci'adqun aqta turun bara'asu
いつくしめ，汝等 糧食 の いまだ終らざるに 節倹せよ，汝等 騸馬 やせ 終らば

qayirala'asu ulu **boluyi** gunesun baran bara'asu quca'asu ulu **boluyi**
いつくしむとも あたわざらん 糧食 尽き 終らば 節倹するとも あたわざらん

(1) は成吉思汗が不具載天の敵タタール部に出征する際，"一緒にタタールに出征しよう" とデュルキン部（成吉思汗のボルヂギン部とは親族関係にある有力な部族）に共闘を求めたが6日間待ってもデュルキンは来なかった。そこで成吉思汗は先づジュルキンに出陣した。(1) はその時，成吉思汗がデュルキンに向って云った言葉である。 boluyi の主語は mud "彼等" であるから，-uyi は -u の複数形であろうという見当はつく。同時に，指上形であることも明かである。

(2) は臣下の速不台をして，メルキット部の残党（トクトアベキの三人の子）を追討せしむる際に，成吉思汗が速不台に勅した所謂「鉄車の勅」の中に見られる言葉である。此処に見られる ulu boluyi の -uyi も複数の主語の述語動詞の語尾として用いられている。それは，ulu boluyi の前の述語動詞に，qayiraladqun "愛せよ(汝等)", quci'adqun "節約せよ" の様に -dqun が用いられている事から知られる。 -dqun/-dkun は秘史蒙古語では「二人称の複数に対する命令形」の語尾である。従って，boluyi の主語は，此処には明示されていないが，複数二人称 "ta" である事が知られる。-uyi の接尾された形は，以上の三例のみしか見られないが，此の三例からでも，「-uyi は -u の複数形及び指上形」であると結論し得る。

3. (七 35 三) eke-yu'en qorcin torolun guigu unuqad metu yekin teyin to'oriqan
"母の(自分の)周りを とりまき 走る 駒達の如く いかんぞ かく 廻りて

ayisai tede ke'en asaqcu'u
来る 彼等は" と 聞えり

4. (七 31 八) Cinggis qahan-u qara'ul ujeju Naiman gurcu **ayisai** keyen kelen
チンギス 可汗 の 斥候が 見て "ナイマン 到り 来つつあり" と 言葉を

gurge'esu...
送ると...

5. (四 4 一) Jamuqa teri'uten Jadaran harban qurban qarin nokoceju qurban
"ヂャムカを首とせる ヂャダランは 十 三 部を 伴い, ゴルバ

Tumed bolju Ala'u'ud Turqa'ud-iyar dabaju Cinggis qahan-tur morilaju **ayisai**
トウメッドとなりて アラオオド トウルカオドの山を 越えて チンギス 可汗 へ 出陣し 来つゝあり"

ke'en
と...

6. (七 34 四) ginji-ben multuldeju edo'e ese'u buqsaju aqsad bayascu teyin
"鉄鎖を(自分の)ほどかれて 今 つながれてあらざることを 喜び かく

silemeljan **ayisai tede** ke'eju'ui
涎をたらし 来りつゝあり" 彼等は と云えり

7. (七 15 四) ede **qurban**-i **ayisai** keyen qada esergu uqtun...
"これ等 三人 が 来つつあり" と カダは 逆に 迎えて...

8. (六 4 五) minqan turqa'ud-un gejige **bida** yeke qol dobtul**ai**-je ke'eju'ui.
一千の 護衛隊 の 後援に 吾々 大 中軍が 襲わん と云えり

-ai の接尾された形は ayisai が 8 例，dobtulai が 1 例，合わせて 9 例であるが，その中の 6 例を此処に示した。一見して，-ai は複数形の語尾であることが判明する。(4) と (5) の ayisai に対する主語は Naiman (部族名) と Jamuqa teri'uten Jadaran "ヂャムカを首とするヂャダラン" (部族名) であるが，秘史蒙古語では，Naiman とか Merkid とか Taicu'ud とか Jadaran とかいう部族名は，文法的に

は複数扱いを受けている。これは当然のことで，Naiman は "8" の意だし，Merkid の -d は複数語尾，Taicu'ud の -'ud も複数語尾であるからである。jadaran の -n も恐らく複数語尾であろう。意味的に見ても部族は一つの集団だから複数扱いを受けるのは当然であろう。

その他の (3)(6)(7)(8) に関しては説明を要しない程，複数形なる事は明かである。N. Poppe 教授は「ayisai が ayisu ～ ayisui の plural form であるか否かは決定困難である[1]」と述べられているが，以上の例から -u の (ayisui なる形は秘史には一例も存しない) 複数形と見做して差支えないと私は信ずる。それより問題と思われるのは -uyi と -ai の関係である。-uyi も上述の如く複数形兼指上形であるから，同様に複数形である -ai との関係が考えられねばならない。私は -ai は複数指下形であると考える。-ai の用例を考察するとその感が深い。(詳しく説く紙数がないので省略に従う。)

§6.4　-i

1. (一 45 二)　Qo'aqcin emegen ugulerun bi Temujin-u-'ai bui yeke ger-tur
コアクチン　老婆が　云うには　私は　テムヂン家のものです　大　家　に

qonin kirqara irelu'e ger-tur-iyan qariju ayisi ke'ebi
羊を　剝りに　来た　家　に(自分の) 帰り　来ることです　と云った

2. (十 25 三, 五)　jurugen-ece toregsen eke-yuyen cimadqa'asu cinar inu
"心臓　から　生れたる　母を(自分の)　責めしめば　心情は ← 彼女の

jekircu jalira'ulu'asu ulu boli ke'eli-dece toregsen eke-yuyen gemuni'ulu'esu
冷えて　見ましめんとすれど 能はざらん　肚　より　生れたる　母を(自分の)　怨まさしめば

genu'er inu gesge'esu ulu boli.
心労を ← 彼女 溶かさしめんとすれど 能わざらん"

3. (三 14 三)　Toqto'a beki-i kebte'ed bo'etele gurgu-yi kilqo muren-e bukun
トクトア　ベキが　臥して　いる間に 到らんとするをキルコ　江　に　いた

jiqacin buluqacin gore'ulucin talbiqsad dayin aisi ke'en suni dulin kelen
魚取り達　貂鼠取り達　猟師達等　放たれたる　敵 来りつゝあり と　夜を徹して　言を

gurgen odcu'ui
伝えに　行けり

4. (十 28 十)　ama'ar alaqsan aci'asu ulu boli uge'er uku'ulugsen ubci'esu
口で　殺した者は　獣すことも出来ない　言葉で　死なしめたる者は 剝ぎとること

ulu boli
とも出来ない

-i の接尾された形は ayisi 7 例，boli 4 例の 11 例である。此処には，ayisi 2 例，boli は全部の 4 例を示した。(1) の ayis-i の主語 bi "私" は qo'aqcin という "老婆" である。(2) の ulu boli の主語は cinar inu "彼女の心情"，genu'er inu "彼女の心労" である。従って此の三例から -i は女性形の語尾であろうとの見当がつく。併し (3) の ayis-i の主語は dayin "敵" である。此の他の ayis-i の五つの例を見ると，総て成吉思汗に反対するいわば "敵" が ayis-i の主語になっている。"敵" に対して女性形が用いられているのは——特に kitad "支那" の軍に対して——誠に興味ある事実である。成吉思汗の率いる勇敢なモンゴル部にとっ

て"敵"は"弱きもの"であったし，特に異民族の支那の軍勢は"弱きもの"であったのであろう。それ故，"敵"に対して，女性形 -i が用いられたのであろう。尚，dayin なる語は，従来言及されていないが，dayisun の plural form である。複数語尾 -n は -i に終る二重母音に終る語幹にだけ接尾するのではなく，-sun に終る実詞にも接尾される。その際には -sun を取去って -n を接尾する。それ故，dayisun→**dayin** となる。此の他にも qobcasun→**qobcan** なる形が秘史蒙古語に於て実証される。(4) の ulu boli の -i は，此の文，全体の意味が，私にはよくわからないので，はっきりしない。此の文を私は随分以前から考えているが，残念なことに，未だどういうことを云ってるのか，その内容をつかめない。今後とも調べて見たい。

以上，-u, -uyi, -ai, -i の用例を示し，その各々を説明したが，此の系列の語尾の一特徴は，会話文の述語動詞の語尾として現われる事である。という事は，此の系列の語尾は口語的表現に於て用いられた語尾であるという事である。それ故，他の中世蒙古語の諸資料には bolué 以外には発見出来ないのではないかと思う。

§7. -d

中世蒙古語に於て，-d が indicative の present form として，用いられているのは顕著な事実である。秘史蒙古語からは 22 例を発見し得るし，パスパ字蒙古語資料中からも発見出来る。此の -d は元来は converbum modalia の -n の plural form とされているが[1]，-n は又，もとは verbal nomina の function を持っていたとされているから，-d も verbal nomina の function を持っていたことになる。併し，私は未だ -n が形動詞として使用されている実例にお目にかゝった事はないし，勿論 -d のかゝる用法も知らない。-d が converbum modalia の -n の複数形として使われた用例を秘史蒙古語の中で見出した。此の例は後に示すが，従来，モンゴリストによって指摘されていないものである。

中世蒙古語では，此の -d は後置詞 -je を伴って，現在時の終止形として用いられた例が圧倒的に多い。此の語尾の意義素もまだ明かにされていないが，今までに述べた現在時の範疇に属する語尾とは異っている。此の語尾の意義素は，「複数の人間がある動作を，現在，又は未来に於て確実に行うことを強調的に表現する」と仮定し得る。

以下に -d の接尾された形の若干を示そう。

1. (三 2 八) bida icuju qahan-u mara'a seri'udu'esu basa jici morilad-je
吾等は 退きて 可汗 の 肌が さめなば 再び 更に 出征せん
bida ke'esu...
吾等は と云って

2. (五 17 七) Cinggis qahan jasaq uguleldurun dayisun gu'u daru'asu
チンギス 可汗は 軍規を 云ひ合いて曰く 敵 人を 圧せど

olja-dur bu bayiya darun bara'asu tere olja bidan-u-'ai bui-je qubiyaldud-je
財物の処に 立ち止るなかれ 勝ち 終えなば その 財物は 吾等 の もの なり 合け合うなるぞ

bida
吾等は

3. (一 13 四, 六, 七) deleme yekin uguled **ta** teu'u-ber uqa'asu temdeg inu
みだりに 何と 云うぞ 汝等 それ にて 思わば しるしは←その

tenggiri-yin ko'u buyu-je qara teri'utu gu'un-tur qanilqan yekin uguled **ta**
天 の 子 なる ぞ 黒き 頭をもてる 人 に 比して 何と 云うぞ 汝等

qamuq-un qad bolu'asu qaracus tende uqad-je ke'eba
普 き 汗と ならば 平民等は そこに 覚るぞと云えり

4. (七 9 九) tende Kogse'usaraq uguleju'u ukugsen qan gu'un-u teri'un inu
そこに コクセウサラッグが 云えり 死せる 汗なる 人 の 頭を ← 彼の

ta gu hoqtolju abcirad noko'ete ta gu kemgerid ya'un jokikui...
汝 等 は きり 持ち来りて その次に 汝 等 は 打ち砕きて 何ぞ よかるべき

(1)(2)(3) は終止形の複数語尾として使われた -d の例である。(4) は副動詞の -d として用いられたもので、矢張り主語は ta "汝等" で複数形が現われている。上述の如く、-d は一般に -n の plural form とされているが、終止形に使用されている -d と (4) の -d とは果して同じ語尾かどうか疑問があると私は思う。以上で現在時の語尾の説明は終った。

§8. 現在，吾々の見られる元朝秘史の流布本では，——例えば，四部叢刊本葉徳輝本——蒙古文語の過去時を表わす語尾 -ba/-be, -bai/-bei の二語尾は，総て「罷」——極く少数ではあるが，「巴」「八」——で表記されている。従って，現在の流布本に従えば，一応，文語の -bai/-bei に相当する形は元朝秘史蒙古語には見られないと云ってもよいかも知れぬ。併し，此処に注目すべきことは，元朝秘史の巻三以後には——巻一，巻二には，以下に述べる「原作」の註記が僅か一例（巻二に於て）しか見られない——各所に，例えば，「亦舌列罷[原別作]」,「客額罷[原伯作]」の如き註記が見られることである。これは，この註記の附されている「亦舌列罷」はもとは「亦舌列別」,「客額罷」はもとは「客額伯」と書かれていた事を物語る。従って，現在の流布本より以前の未だ吾々には知られていない異本には「亦舌列別」「客額伯」の形で見えていた事は確かである。私は，此の註記は当然研究の対象としなければならないと考えていた所，第 42 回日本言語学大会に於て私が「中世蒙古語の動詞語尾の体系」という研究発表をした三日後，服部四郎先生から私信を以て「伯，別」を調べて見たら如何という御教示をいただいたので，先生のその御教示に力を得て，上の二種の註記の附された語の総てを調べ始めた。

先づ，「[原別作]」の註記は殆ど例外なく所謂女性語に附され，又，「別」は服部先生の第一種転写[(1)]で piɛ'[12]，第三種転写で be であるから，-ba の母音調和による交替形 -be を表わした事は間違いない。

次に，「[原伯作]」であるが，「伯」は服部先生の第一種転写で pai'[2]，第三種転写で bai であるから，蒙古語音の -bai 及びそれに近い音を表わしたものである。それ故，

蒙古文語の -bai/-bei の -bai に当る形と考えられる。然るに，元朝秘史蒙古語には，-bai の母音調和による交替形 -bei に当る形——もし出てくるとすれば「北」の字で表記されるであろうが——は見られない。この事は，併し，大した問題ではない。例えば蒙古文語の -tai/-tei (共同格及び所有，所属を示す実詞形成語尾) は，現在のハルハ方言チャハル方言等では男性語幹に接尾すると女性語幹に接尾するとを問わず，一様に -tɛ̄, tɛə に近く発音され，又，manai (吾々の)，tanai (貴方の) 等は普通 manɛ̄, manɛə, tanɛ̄, tanɛə の様に発音される。従って，中世蒙古語に於ても，-bai/-bei は bɛ̄, bɛə の様に発音されていた可能性は十分にある。それ故，例えば「伯/北」の如き書き分けをせず，一律に「伯」で -bai/-bei を表記したものと考えられる。以上の如く，「原伯作」の註記のあるものは，文語の -bai/-bei に相当する語尾を持っていたと考え，「原別作」のものは，-be を示したものと考えれば，元朝秘史蒙古語に於ても，文語の -ba/-be, -bai/-bei に相当する -ba/-be, -bai/-bei が存したと考えられる。従って，元朝秘史蒙古語を資料としての -ba/-be, -bai/-bei の二語尾の研究は十分可能であるといえる。

さて，元朝秘史全十二巻の中，三巻以後——巻一，巻二は，罷のみが使用され，何の註記も施されてないので——を調べると，罷 -ba の接尾された例 342 例，「原別作」の註記のあるもの 179 例——これは若干の調査もれがあるかも知れない——，「原伯作」の註記のあるもの 282 例，合計 803 例の多きに達する。此の数は，成吉思汗の編年的な年代記という此の文献の性格を考え，又 -ba/-be, -bai/-bei が蒙古語に於ける最も一般的な過去時の語尾であることをあわせ考えれば，決して怪しむに足りない。此等多数の用例を検討した結果，此の両語尾に於ても，原則的に，単数と複数という対立が厳然と守られている事が判明し，同時に，-ba/-be が指下，-bai が指上という職能をもあわせ有することが明かになった。即ち「原伯作」の註記のあるものは，その殆どが，複数形であるか指上形であるかによって十分解決せられることになった。以下に実例を以て説こう。

§8.₁ -ba/-be

1. (三 7 八, 九, 十², 8 一²) Jamuqa basa ugulerun Temujin anda To'orinl
ヂヤムカが 又 云うには テムヂン 義兄弟 トオリル

qan aqa qoyar-a ugule keyen ugulerun bi burun qara'atu tuk-iyan sacu**ba bi**
汗なる 兄 二人 に 云へ と 云うに，我 こそは 遠見のきく 旗 を 祭りたり 我は，

qara buqa-yin arasuniyar burigsen burkiren bukui dau'utu ko'urge-ben
黒き 牡牛 の 皮もて はりたる 響き ある 声もつ 太鼓 を

deled**ba bi** qara qurdun-iyan unu**ba bi** qatangqu de'el-iyan emus**ba bi**
打ちたり 我は，黒き 早馬 に 乗りたり 我は，鋼の如く硬き 衣 を つけたり 我は，

qatang jida-ban bari**ba bi** qadqurasutu sumun-iyan onola**ba bi** Qa'ad
鋼の如く 硬き槍 を とりたり 我は，よくさゝる矢じりある 矢 を 番えたり 我は カアド

Merkid-tur qadquldun morilaya bo'ed keyen....
メルキッドに 鞍いに 出馬せん 直ちに と云って

2. (六 34 九, 35 一) basa Cinggis qahan Jamuqa anda-da ugule keyen ugulerun
又 チンギス 可汗は ヂヤムカ 義兄弟に 云え と 云うには

qan ecige-dece minu ujem yadaju qaqaca'ul**ba ci** urida bosuqsan bidan-u qan
汗なる　父　より←わが　見え爭して　離せしめたり 汝は，先に　起きたる者は←吾々の 汗なる

ecige-yin koko cung uuqu bule'e nada urida boscu uqdarun nayida**ba**-je **ci**...
父　の　青き 盃にて 飲むなり き，　我に　先に　起き　飲まれて　嬉みたり　汝は

3. (四 37 三, 四) Wang qan Ergune huru'u Jamuqa-yi neke**ba** Cinggis qahan
ワン　汗　エルグネ河を下って　ヂヤムカ　を　追った　チンギス　可汗は

Onan jug Taiyici'ud-un A'ucu Ba'atur-i neke**ba**
オノン河の方へ　タイチョゴットの　アウチュ　バートルを　追った

4. (六 12 九) Bo'orcu ugulerun.....中略.....aci'a inu hoqtolju yinggircaq-tur
ボオルチュが　云うには　　駄荷を←その　切って　単鞋　に

inu unuju qarcu bidan-u qaqacaqu qarusan mor modkin yabuju olju edui
←その 騎って　出て　吾々　の　離れ　出た　跡を　つけて　行って 見つけて やっと

ireba(**be**) **bi** ke'eba(**be**)
来た　私は　と云った。

5. (六 26 七) Ui'ud-un Tangud-un qajar-iyar yadanju ayisurun tabun ima'ad
ウイウドの　タングットの　土地　を　困って　来る時，　五匹の　山羊を

sirgoleju sa'aju ideju teme'en-u cisun qanaju ideju qaqca soqor qali'un
かこんでとり乳をしぼって 食べ　駱駝　の　血を　写血して　食べ　唯一つの　首の　黒と黄色の

moritu ireba(**be**)-je ci
馬をもって やって来たのだ 貴方は

以上の例は三百数例の中のほんの僅かに過ぎないが，-ba/-be は (1) の sacuba bi, deledba bi, (2) の nayidaba ci, (4) の ireba(be) bi, (5) の ireba(be)-je ci の如く，単数代名詞と共に用いられ，(3) も nekeba の主語は Wang qan であり，成吉思汗である。-ba/-be が男性単数形であることは確実である。尚，(4)(5) の ireba(be) の (be) は「原別作」の註記の別を示したものである。(1) の deledba, emusba, (4) の nekeba 等も「原別作」の註記があって然るべきであるが欠けている。此の様に「原別作」の註記には時々補って然るべき個所がある。-ba/-be が男性単数形であることに関しては先づ例外がないが，(3) の二番目の nekeba は成吉思汗が主語なので，単数ではあるが普通，指上形の -bai が用いられる方が多い。即ち「原伯作」の註記が附されたものの中で，複数形と認められないものは，後に例を示す如く，「成吉思汗は.....した」という時に使われている場合が非常に多い。では次に -bai/-bei に移る。

§8.$_2$ -bai

1. (九 1 四) ede Qubilai Jelme Jebe Subegetai ta dorben noqas-iyan
此等　コビライ　ヂェルメ　ヂベ　スベゲタイ　汝等　四　犬　を

sedkigsen-dur jori'ulju ile'esu gur ke'egsen-dur guru kamkelun qal ke'egsen-
思いし処　に　向けて　やれば，到れ　と云える処に　小石を　砕き　攻撃せよ　と云える

dur qada qaqalun ceugen cila'un-i ceu'ulun ce'el usun-i nitulun a**bai** je ta
処に　岩を　破り　青白い　石　を　砕き　尽きせぬ　水　を　断ちて　ありき ぞ 汝等

2. (六 17 二) Mangqol-un olonkin Jamuqa-lu'a Altan-lu'a bidan-dur bui
モンゴル　の　大半は　ヂヤムカと共に　アルタンと共に　吾等の処に　あり

Temujin-lu'e daiyijiju qaruqsan Mangqol qa'a odqun tede morin unu'atan
テムジンと共に　そむき　出でたる　モンゴル　何処へ　行かん　彼等　馬の　乗物をもち

modun nemureten bolba(**bai**) **tede**
木の　蔽い物をもつに　到れり　彼等は

3. (十 7 三) a'urasun ed bidan-u **ceri'ud** da'aqui-aca aciju kibu'ud-iyar
調度品 財物を 吾等の 兵士等 出来るだけ 積みて 熱絹 で
aci'a-ban tataju yabuba(**bai**)
財物 を しばりて 行けり

4. (四 20 七) Saca Taicu qoyar ugulerun ugulegsen uge-dur-iyan **ba** ese
サチャ タイチュ 二人が 云うには 云える 言葉に(自分の) 吾等は
gurba(**bai**) uges-dur man-u gurge ke'e'ed...
到らざりき 言葉 に←吾等の 到らせよ と云いて...

5. (四 4 九) Jamuqa ugulerun Onon-u Jerene-de qorqaba (**bai**) **bida** ke'eju...
デヤムカ 曰く オノン河の デェレネに 逃げ込ませたり 吾等は と云いて...

以上示した 5 例はいづれも plural form と見做される -bai である。(bai) は「原作伯」を示したものである。(1) の abai は「阿伯」と見え,「伯」が本文中に使われている唯一の例である。此等の諸例は説明を要する必要のない程,複数形なる事を明示した例である。「原作伯」の 282 例の中,文中に此の諸例の如く複数実詞が見られ,明かに複数形を示す例は大体 $\frac{1}{3}$ の 80 数例,その他,複数形と十分解釈し得るもの 80 例前後,残りの約 $\frac{1}{3}$ が指上形と見做すべき用例である。此の様に全体の $\frac{2}{3}$ 強は複数形語尾と認め得るから,原則的には -bai は -ba/-be の plural form であるという事は云い得るが,$\frac{1}{3}$ 弱のものは複数形とは認められないので,私は今まで困っていた。併し,上述の如く,此処にも指上形という概念を適用することによって,その殆ど総ては解決し得た。

以下に指上形の -bai の用例を示そう。

6. (五 1 六) ulus irgen-i anu godolgeju ireju **Cinggis qahan** Qubaqay-a
国, 民 を←彼等の 動かして 来て チンギス 可汗は コバカイ に
ubuljeba(**bai**)
越冬した

7. (十 2 七) Cabciyal qa'alqa Jebe abcu daba'ad buliju dabaju **Cinggis**
居庸 関を ヂェベは 取って 嶺々を 尋ひて 越えて チンギス
qahan Sira Degtur ba'uba(**bai**)
可汗は シラ デクトゥルに 駐営した。

8. (四 19 八) **Cinggis qahan** Jurkin-dur morilaba(**bai**)
チンギス 可汗は ヂュルキンに 出馬した。

9. (四 24 十) **Ho'elun eke** ko'ud-teyen udur ujegu-yin nidun soni sonosqu-yin
ホエルン 母は 子供達に対し 昼間は 見る所の 目 夜は 聞く所 の
cikin ken-e bolqaqu-yu keyen ger dotora teji'eba (**bai**)
耳と 誰 に 成らせん か と云いて 家 中に 養えり

10. (十 20 九) tende Yesui qatun Cinggis qa'an-a duradqan ocirun qahan
そこに イエスイ 后 チンギス 可汗 に 提言して 奏するに 可汗は
ondur daba'a daban orgen mured ketulun urtu ca'ur ca'uran olon ulus-iyan
高き 峠を 越え 広き 江を 渡り 長き 征旅 を行い 多くの 国 か
jibsi'erun sedkiba (**bai**)
治めんと お思い給えり

例 (6)(7)(8) の様に,"Cinggis qahan" が主語となっている文の述語動詞は -ba/-be でなく「原作伯」の註記が附されている事が非常に多い。此の -bai は複数形ではなく,指上形と見なければならぬ。例 (9) は "Ho'elun eke" が主語の場合である

が，此の teji'ebai の -bai も "Ho'elun eke" に対する指上形である。更に例 (10) の sedkibai は Yesui qatun が成吉思汗に奏上した言葉の中に見られる。劣→優の会話文中に於ける相手の行為を述べた述語動詞の語尾として用いられているのであるから，当然指上形である。以上十例を挙げて -bai について説いたが，此の語尾も，指上形という概念の適用を以て十分の理解が斎らされる事を明かにし得たと思う。

§8. -bi

-bi が -ba/-be の feminine form であることはすでに私は明かにした。此の -bi は元朝秘史蒙古語に於ては 29 例を発見し得るが，他の中世蒙古語諸文献では見当らず，僅かにパスパ字蒙古語資料の中に一例[2]発見されるに過ぎない。私は数年前に此の -bi については小論を発表したので，此処では簡単に記述するにとゞめたい。

1. (一 10 五) teyin atala Dobun Mergan ugai bolba Dobun Mergen-i ugai
かく する内に ドボン メルゲンが なく なった ドボン メルゲンが なく
boluqsan-u qoyina **Alan qo'a** ere ugai'ui bo'ed qurban ko'ud tore'un**lbi.**
なった の 後 アラン コアは 夫が なく あって 三人の 子等を 生んだ

2. (一 23 六) tere dunda ke'elitai **eme** Boduncar-tur ireju ko'ule**bi**
その 姙娠した 女は ボドンチャルの処に 来て 子を生んだ

3. (五 23 十) **Yesugan qadun** egeci-yan uje'ed urida ugulegsen uge-dur
イエスガン 妃は 姉を(自分の) 見て 以前に 云った 言に
gurun boscu sa'uqsan sa'urin-dur-iyan sa'ulju mun o'esun doro sa'u**bi.**
従い 立ち上り 坐っていた 座に(自分の)(姉を) 坐らせ 彼女 自身は 下に 坐った

4. (五 25 一) **Yesui qadun** yekede seu'urel**bi.**
イエスイ 妃は 大きく 溜息をついた

5. (七 10 八) **Qadun-u** bidan-u **Gurbesu-yin** jasaq qurca bol**bi.**
妃 の ← 吾等の グルベス の 法規は 鋭く なった

以上 (1)—(4) までの -bi は何の説明を要しない程，明かな女性形であるが，(5) の bolbi は若干説明が要る。bolbi "なった" の主語は jasaq "法律" であって，"女性" ではない。併し，その前に "吾等の**妃グルベスの**" という限定句がある。此処に女性形 -bi が用いられた理由がある。此の様に中世蒙古語に於ける女性形は——複数形も同様であるが——① 主語が女性である時にその述語動詞の語尾は女性形になる（多少の例外はある）という原則の他に ② 主語が女性でなくてもその述語動詞の目的語が女性である時も女性形語尾をとる ③ 主語及び目的語に女性及び女性に関する限定語（限定句）がある場合にもそれ等に対する述語動詞の語尾も女性形をとることがあるという二傍則を規定し得る。此の二傍則の ③ が例 (5) に適用されるわけである。傍則 ② の適用については次節で述べる機会があるのでそこにゆづりたい。

§9. -ju'u (-cu'u), -ju'ui (-cu'ui), -jigi (-cigi), -ji'ai, -je'ai, -ci'ui, -jukui, -jugu

中世蒙古文語の -juɣu/-jügü (-cuɣu/-cügü), -juɣui/-jügüi——古典期文語では

-juqui/-jukü̈i (-cuqui/-cükü̈i) であるが——に対応する形として，元朝秘史蒙古語では -ju'u (-cu'u), -ju'ui (-cu'ui) が見られる。-jigi (-cigi) は中世蒙古文語にのみ発見され (S.M.I. 1335)，元朝秘史蒙古語には見出し得ない。秘史の -ji'ai は中世文語では -jiɣai として稀に発見される。*その他，-je'ai, -ci'ui は各々一例づつ秘史蒙古語から検出される。又，古典期文語に対応する形の -jukui が之も一例ではあるが秘史蒙古語に見られる。更に中世文語の -jügü に対応する -jugu なる形も一例のみ見られる。此の様に多くの形を秘史蒙古語から吾々は発見し得るが，-ji'ai 以下の語尾は各々一例のみ——-ji'ai は二例——検出されるに過ぎないから，之等の諸語尾の考察は後廻しにして，先づ，-ju'u (-cu'u), -ju'ui (-cu'ui), -jigi (-cigi) の考察から始めることにする。

秘史蒙古語全十二巻中に用いられた -ju'u (-cu'u) の例は 162 例，-ju'ui (-cu'ui) の例は 167 例で，殆ど同数の使用例を示している。-ju'u の接尾された動詞 162 例を検討すると，その 95% までは単数の実詞が，その主語として用いられているので，-ju'u を masculine singular の形と見る事には先づ異論はない。残りの 5% は指下形と認められる。-ju'ui の 167 例の中，複数形及び複数形と見做し得るものは大体 $\frac{1}{2}$ の 80 例前後，残りの $\frac{1}{2}$ 前後は指上形と認められるが，10 例前後の例外がある。-ju'ui が接尾された語の中で最も多く現われるのは ke'eju'ui "と云った" の 35 例，ついで ileju'ui "遣わした" の 12 例であるが，之等 47 例は殆ど指上形であるため，指上形が約全体の半数を占めているわけである。此の二語 ke'eju'ui "と云った" と ileju'ui "遣わした" が殆ど指上形として用いられているのは，此の文献の性質から考えて当然の事で，例えば「成吉思汗が〜と云った」，「成吉思汗が〜を遣わした，〜と云って遣わした」等という表現が此の文献には非常に多いが，その「〜と云った」「遣わした」は指上形が用いられ，又，成吉思汗に限らず，「王中宰，札木中合，塔陽中罕，その他の中罕等が〜と云った，〜を遣わした」という場合にもその「〜と云った」「遣わした」には総て指上形が使用されるので，此の二語だけで指上形の半数以上を占める事になっているのである。-mui, -bai の場合には全体の約 $\frac{1}{3}$ が指上形と認められたが，此の -ju'ui の場合も上の二語の 40 数例の特殊性を考えると指上形が多過ぎると云うことはない。以上の如く，此の語尾も単に -ju'u の plural form とするだけでは，その約半数が例外となり納得し得ないものであるが，指上形の適用によって，此の例外は大半解決され，私には解決出来ない 10 例前後の例外が残ったに過ぎない。その例外の中には，例えば (二 23 四) 不塔阿不吾剌主為 buta abura-**ju'ui** "叢は救った" の "叢" の如く単・複の規定が言語的にはなし得ても，内容的にはなし得ないものもある。此の様な主語に対して用いられた -ju'ui を如何に考えるべきか今の私にはわからないが，buta という語が文法的には複数の扱いを受けるという事は考えられないでもない。此の様な約

* F.W. Cleaves. The Sino-Mongolian Inscription of 1338 in memory of Jigüntei.

10 例の例外を除けば，此の語尾 -ju'ui も -ju'u の複数形及び指上形であると規定し得るのである。

§9.1 **-ju'u**

1. (一 20 三) Horam atala Tunggelig qoroqan o'ede nikan gu'un ayisun
程なく する内に トウンゲリック 小河を 逆って 一人の 人が 近づき

buiyu gurcu irebesu Bodoncar mun **aju'u**
つゝある 到り 来れば ボドンチャル 彼で あった

2. (二 4 五) Caraqa ebugan yaratu bolju ger-tur-iyan ireju berke kebtekui-
チヤラカ 老人は 傷つき になって 家 に(自分の) 来て つらく 臥している

dur **Temujin** ujere od**cu'u**
時に テムジンは 見に 行った

3. (六 23 八) erte udur ke'esu Qurcaqus Buyirug qan ecige-yuyen qoyina
古き 日は と云えば コルチャコス ブイルック 汗なる父の(自分の) 後

docin ko'ud-un aqa ke'eju qan bol**ju'u**-je **ci**
四十人の 子供達の 兄なり とて 汗と なれり 汝は

4. (十 34 八) **Odcigin** noyan ugulerun elci ilegu minu'ai buru'u ke'e**ju'u**
オトチギン 官人が 云うには 使を 遣わせるは 吾が 誤りなり と言った

5. (五 15 八) de'uner-ece **Jaqagambu** buru'udcu Naiman-dur oro**ju'u**
弟達(の中)から デカカンブは 逃れて ナイマン に は入った

6. (八 4 八) basa urdia oroqsan **Merkid** a'uru'ud-aca daiyijin bos**cu'u**
又 さきに 投降せし メルキッドは 家々 から そむき 起ちたり

7. (八 5 二) tende Cinggis qahan jarlig bolurun tundaqa ba a'uluya
そこに チンギス 可汗 勅して 曰く 全てを ば あらしめん

ke'elu'e **mud** ele daiyijin **aju'u** keyen...
と云えり(然るに)彼等 は そむきて ありき と云いて...

8. (十一 44 五) Joci Ca'adai Ogodai **qurban ko'ud** Olunggeci balaqasu oro'ulju
ヂォチ，チアダイ，オゴダイの 三 子 は オルンゲチ 城を 陥れて

qurba'ula bala'qad irgen qubiyalduju Cinggis qa'an-a qubi ese qarqa**cu'u**
三人して 城 民を 分け合いて チンギス 可汗 に 分前を 出さざりき

以上の八例の中，(1)—(5) は男性単数形の例を示し，(6)—(8) は指下形の実例を示した。(3) は成吉思汗が王罕に向って，彼の非行を責めた言葉である。それ故，bol-ju'u と指下形が用いられている。王罕が最後に成吉思汗の敵となる時までは，彼に対しては普通指上形を用いて成吉思汗は話している。従って (3) の例は，単数形兼指下形といえる。(6) の bos-cu'u "起ちたり" の主語は Merkid "メルキッド部族" である。秘史蒙古語では普通部族名は文法的には複数の取扱いであるから本来なら -cu'ui が使われるべきであるが Merkid 部族は成吉思汗の妻ブルテを一度は奪った，いわば倶に天を戴かざる仇敵である。それ故 -cu'ui を用いず，指下形の -cu'u が用いられている。(7) の a-ju'u "〜であった" の主語も mud "彼等" であるから，-ju'ui が用いられて然るべきであるが，之も mud "彼等" はメルキッド部を指しているので，-ju'u が用いられている。(8) の ese qarqa-cu'u "出さざりき" に対する主語は Joci Ca'adai Ogodai qurban ko'ud "ヂオチ，チァダイ，オコダイの三子" であるから，之も本来なら qarqa-cu'ui が使われて然るべき処である。成吉思汗の子であるから普通は指上形が使われるのだが，此処は，此の

三人が成吉思汗に対し，不信の行為を為したために，指下形の -cu'u が使われたものであろう。以上の八例から，-ju'u は男性単数形及び指下形であることが明かになった。

§9.₂ -ju'ui

1. (五 2 五) Sirgu'etu ebugen Alaq Naya'a ko'ud-lu'e-ben Tarqutai Kirinltug-i
シルグエトゥ 老人は アラック ナヤアなる子供達と共に タルコタイ キリルトックを

bariju ayisuqui-dur Tarqutai Kirinltuq-un **ko'ud de'uner** inu buliju abuya
捕えて 来る 時に タルコタイ キリルトックの 子供 弟達は ← 彼の "奪い 取らん"

keyen guiyiceju ire**ju'ui**
とて 追い 来りぬ

2. (三 17 九) Merkid qurban ja'ud **haran** udur-un erte Toqta'a Beki-yin de'u
メルキッドの 三 百人の 人々は 日 の 昔, トクトア ベキ の 弟

yeke Ciledudece Yesugai Ba'atur-a ho'elun eke-yi buliju abtalai keyen te'un-i
イェケ チレドから イエスガイ バアトル に ホエルン 母 を 奪い とられたり と それ を

osen hacilan od**cu'ui**
仇を 報ぜんと 行けり

3. (三 15 九) Borte Ujin Qo'aqcin **jirin** Temujin-u jilu'a cilbur soni taniju
ボルテ ウヂン, コアクチンの二人は テムヂン の 手綱, はづなを 夜に 認めて

bari**ju'ui**
摑んだ

4. (五 16 四) qan-a ele nilbuqdaju ger-tur bukun **haran** bugude'er boscu
汗に ぞ 嚥されて 家 に ある 人々 総て 起ちて

nilbu**ju'ui**
嚥せり

5. (十 38 四) Jalalding Soltan qan Melig **qoyar** Cinggis qa'an-u esergu
ヂヤラルデイン ソルタン 汗と メリックの二人は チンギス 可汗 に 敵対して

morila**ju'ui**
出馬した

6. (十 52 四) tendece Ogodai qahan ugulerun Ca'adai aqa Batu teri'uten
それから オゴダイ 可汗が 云うには チヤアダイ 兄, バトを頭とする

bara'un qar-un ko'ud aqanar de'uner burin Odcigin noyan Yegu teri'uten
右 翼 の 子等, 兄等 弟等 総て, オトチギン 官人, イェグを 頭とせる

je'un qar-un aqanar de'uner burin ko'ud qol-un okid guriged tumed-un minqad-
差 翼 の 兄等 弟等 総ての 子等, 中 の 女達 婿達 万戸 の 千戸

un ja'ud-un harbad-un noyad bur-iyer jobsiye**ju'ui**
の, 百戸 の, 十戸 の 官人達 総て 承認せり

以上の六例の -ju'ui は総て複数形の -ju'ui と見られる例である。(1) の ireju'ui "来た" の主語は ko'ud de'uner "子等, 弟等" であり, (2) の odcu'ui "行けり" の主語は qurban ja'ud haran "三百人の人々" であり, (3) の bariju'ui "つかんだ" の主語は jirin "二人" であり——これは女性なので, 女性形の -ji'ai が用いられて然るべきだが——又, (4) も (5) も共に複数の語が主語として立っている。約 80 例の中から 6 例のみ引用したわけであるが, 残りの 70 数例も複数形と見做し得るものであることをつけ加えておこう。

7. (三 15 六) **Borte Ujin** tede durbekun irgen-dur bu**ju'ui**
ブルテ 夫人は 彼等 敗走する 民 に おりき

8. (五30九, 十) Jamuqa ugulerun Temujin anda minu uridaca Naiman-dur
ヂヤムカが 云うには テムヂン 義兄弟は←わが 以前より ナイマン に
elcitu bule'e edo'e ese ireba(bai) qan qan aqu qayiruqana bi buiyu-je ajiraqu
使をもちてありき 今 来らざりき 汗 汗 はなれざる 雲雀 (我は) なり, はなれる
bildu'ur anda minu buiyu Naiman-dur odcu'ui-je oroqu bolun qocorba ke'eju'ui
雀 (義兄弟←わが) なり, ナイマン に 行けり, 下らん として 残れり と云えり

9. (八29五) Sigiqutuqu ugulerun——中略——namayi edo'e nada yambar
シギコトコ 曰く 私を, 今 私に 如何なる
soyorqal ogumu ke'eju'ui
恩賜を 与えるや と云えり

此の三例は指上形と認められる例である。(7) の buju'ui の主語は Borte Ujin で単数であるが，成吉思汗の母であり，賢夫人の誉高き女性である。従って -ju'ui が用いられた。(8) はヂヤムカが王罕に対して成吉思汗をザン言した言葉である。odcu'ui "行った" の主語は此処には見えないが彼（成吉思汗）である。従って -cu'ui が現われている。(8) の最後の ke'eju'ui (9) の ke'eju'ui についてであるが，これは（劣)→(優）の線上の会話を取りかわして，最後に会話文の結びとして，"誰々(劣)は誰々(優)に〜と云った」の「と云った」(ke'eju'ui) に当るものであり，上に示した（劣)→(優）の会話文の結びには必ずといってよい程 ke'eju'ui と -ju'ui が使われるのである。(劣）が（優）に向って "云う" のであるから当然指上形が使われるべきだが，今までは会話文の中での述語動詞の語尾が主に述べられて来たので，それとは幾分事情が異ると思われたので，特に言及した。指上形の -ju'ui も 80 例前後見られるが，矢張り紙数の関係で此の三例にとめておかねばならない。

§9.₃ -jigi (-cigi) と -ji'ai

すでに記した如く，-jigi (-cigi) なる語尾は秘史蒙古語には見られず，僅かに [S.M.I. 1335] に 3 例発見されるのみである。以下に示す用例によって，此の語尾は -ju'u の女性形語尾なる事が明かになるが，此に関しては W. Cleaves 教授も註を附して言及されている(2)。又，秘史蒙古語に 2 例だけ発見される -ji'ai も——之に対応する中世文語形 -jiɣai は [S.M.I 1338] に一例見られる——後例に見る如く女性形である。先づ用例を示す。

1. [S.M.I. 1335] [29] gergei inu Gang ši-da Sing qoo gün wušin ner-e ögcigi
妻←彼の 剛 氏に 清 河 群夫人なる 名を与えたり
qoyin-a basa Gi gui wušin ner-e wungsinglaɣsan ajigi (wungsing——"封贈"
後 に 又 薊 国 夫人なる 名を 封贈せり き
→wungsing-la——"封贈する")

2. (一 1 三) de'ere tenggeri-ece jaya'atu toregsen borte cino aju'u gergai
上 天 より 運命もて 生れし 蒼き 狼 ありき 妻←
inu qo'ai maranl ajji'ai
その 真白き 牝鹿 ありき

3. (五22九) nadaca egeci Yesui neretai nadaca de'ere qan gu'un-e jokiqui
私より 姉 イエスイ なる者は 私にまして 汗たる 人 に ふさわし
aji'ai-je.
かりき

(1) の ögcigi, ajigi の主語は女性ではないが——此の場合は皇帝——ögcigi "与えり" の目的語として gergei "妻" が存することによって女性形が使用されている。(2), (3) の場合は主語が女性であるから問題はなかろう。尚, [S.M.I. 1338] の 21 行目に現われている ajiɣai も此処には示さなかったが明かに女性形であることを附記しておこう。さて, -jigi (-cigi), -ji'ai が共に女性形だとすると, 此の両者にも何か相違があるのではないかと当然考えられる。併し, 此は, いづれも用例が少いので, はっきりした事はいえない。私の臆測では形の上から見て, ji'ai は女性複数形兼指上形の感じがするが, もう少し豊富な実例が欲しいものである。

§9.$_4$ -je'ai, -jukui, -jugu

此等の語尾は共に 1 例づつ見られるが, その例を挙げる必要もあるまいが, -je'ai の例だけ次に示そう,

(二 3 八) Todo Yengirte ugulerun e'el usun nidualu'a ceugen cila'un
トド イエンギルテ 曰く 泉 水は 乾れたり 白き 石は

ceu'urelu'a ke'e'ed neu'uje'ai
砕けたり と云いて 移動せり

此の -je'ai は僅か一例であるから何も云えないが, もしかすると何かの誤植であるかも知れない。-jukui, -jugu という文語形にそのまゝ当てはまる様な形が現われている事は興味ぶかい。共に ile- "遣わす" に附されて, 「亦列主恢, 亦列主古」として発見される。

§10. -'a/-'e; -'ai

此の語尾は蒙古文語では -ɣa/-ge, -ɣai/-gei で現われ, nomen imperfecti の語尾とされている。-ɣai/-gei は前古典期 (pre-classical) の文語に主に見られる形である。元朝秘史蒙古語に於ては -'a/-'e は「阿/額」の文字で表わされ, -'ai は「埃」で表わされている。-'ai の母音調和による交替形は漢字面によっては書き分けられていないが, 此の理由は §8 の -bai の項で述べた事と同様なことが云い得ると思う。秘史には -'a/-'e が 12 例, -'ai が 17 例見られ——若干の調査もれがあるかも知れない——やはり, -'a/-'e は男性単数形, 及び指下形, -'ai は男性複数形であると共に指上形という対立が存することを知り得る。以下に実例を示しつゝ説こう。

10.$_1$ -'a/-'e

1. (一 49 二) bi ko'u-ben Temujin-i guriged-te talbiju irerun ja'ura Tatar
私は 子を(自分の) テムヂン を 婿 に 置いて 帰って来る 途中 タタール

irgen-e oyisulaqda'**a** **bi** dotora minu mau'ui bui
の民 に 毒をもられた, 私は, 内部は←私の 悪い のだ

2. (三 4 一, 三) Jamuqa anda-da ugule keyen uguleju ilerun Qurban Merkid-te
ヂヤムカ 義兄弟に 云え と 云って 遣すには, コルバン メルキッドに

ireju oro-ban hoqtorqu bolqaqda'**a** **bi** onor nikantan busutu bida osol-iyan
来て 位を(自分の) 空に された 私は 家族を 一つとする のではないか吾々は, 仇を(自分の)

ker osekun ebur-iyan hamtunlde'e **bi** eligen-u urug busutu bida, haci-yan ker
如何に 報ぜん 腸を(自分の) たち切られた 私は 肝臓 の 親族 ではないか 吾々は 仇を(自分の)如何に

hacilaqun bida ke'eju ileba
うつべき 吾等は, と云って 遣わした。

3. (十15九) Cinggis qa'an-u ed a'urasu ecine'un yekin qulaqcu abcirajuu
チンギス 可汗 の 財産 調度を かげで どうして 愉み 持ち来りて

ogumu ci bi ulu abqu ke'eju **Sigiqutuqu** ese abu'a
与えるか 汝は,我 取らず と云いて シギコトコは 取らなかった

以上三例のの中に示した -'a/-'e は単数の主語に対して使われているから，単数形と見做すことに問題はない。次に -'ai に移る。

§10.$_2$ -'ai

1. (十45五) tende Bo'orcu Muqali Sigiqutuqu qurban ocirun ocen meljan
そこに ボオルチュ ムカリ シギコトコの 三人 奏するには 争い そむき

aqsad Sarta'ul irgen-u soltan-i doroyidda'ulju balaqad irgen anu abu'**ai bida**...
ありし サルタオルの 民 の 王 を 屈服せしめ 城 民を←彼等の 取れり 吾等は

2. (六28八) basa bida Gucugur tai Buyiruq qan-i Yluqtaq-un Soqoq usun-aca
又, 吾々は グチュグル タイ ブイルク 汗を オロックタックのソコック 河 から

Altai daba'ulun huldeju Urunggu huru'u odu'ad kicilbasi na'ur-a muqudqaju
アルタイを 越えさせて 追い ウルング河を 下って 行って キチルバシ 湖 に 追いつめて

abu'**ai bida**
取った 吾々は

3. (六18十) teyin neu'uju ayisuqui-dur gunesun-e abalan yabuqui-dur
かく 移り 来る に 食糧(のため)に 狩をして 行く 時に

Quyildar yaras-iyan anu'**ai** udu'ui-e Cinggis qahan-a idqa'asu ulu bolun
コイルダルは 傷が(自分の) 全快せずあるに, チンギス 可汗 に とめらるるも肯んぜず

gore'esun-dur dobtulqu bolun hugdereju nogciba
獣 に 走ること になりて 重病となり 身まかりぬ

4. (八34一) Munglig ecige-yin ger-tur qono'asu Munglig ecige ci ese
ムンリッグ 父 の 家 に 宿ると, ムンリッグ 父 汝が とめ

idqa'asu huyilun bukui usun-dur hulalun bukui qal-dur oroqda'**ai** bule'ai-je
なかったら, 渦巻き ある 水 に 赤く(燃えて) ある 火 に 入れられていたのだ

5. (十35二) Odcigin manaqarsi erte Cinggis qa'an-i bosu'**ai** udu'ui-e oron
オトチギン 朝 早く チンギス 可汗 が まだ起きず 寝床の

dotora bukui-dur oroju uiyila'ad sogodcu ugulerun...
中に ある 時に 入りて 泣き 跪ろて 云うには...

以上の五例の中，(1),(2),(3) は複数形の用例として，(4),(5) は指上形の用例として挙げた。(1),(2) はいづれも abu'ai bida "取れり，吾等は" の如くであるから問題はない。(3) の anu'ai udu'ui-e "全快しないうちに" の主語は yaras-iyan "傷が(自分の)" 《文字通りには "傷を"(自分の)》である。此の yaras は yara "傷" に複数形成語尾 -s が附された複数形であることに注意したい。従って anu'ai の -'ai も plural form である。(4) の oroqda'ai "入れられた" の主語は明示されていないが成吉思汗がムンリッグに向って，自分の行為を述べているのだから指上形と解し得る。又 (5) の bosu'ai の主語は Cinggis qahan であるから，単数にも拘らず，指上形の -'ai が用いられたわけである。

以上，-'a/-'e と -'ai に関しても，単複という数の観点からのみでは，此の語尾の完全な説明はなし得ず，指上・指下という概念の適用によって，はじめて十分に理解し得ることを示した。

* * * * * *

これで indicative endings の総てに亙って述べ終ったことになる。動詞の終止形の語尾には，此の外に命令形の諸語尾があるが，その若干のものは中世蒙古語では数の対立の下に区別されていた。本稿ではその事にふれる余裕はないが，次節結論の項で若干言及したい。

§11. 結語 以上，私は中世蒙古語の終止形の語尾の中，indicative の総ての語尾について言及し終った。§2.$_2$ で示した中世蒙古語の indicative endings の体系の大綱は，今までの記述で，原則的に証明し得たと私は思う。次に残っている問題は，終止形の中の命令形の諸語尾であるが，之についても，次の結論を出し得ると考える。即ち元朝秘史蒙古語に現われる命令形語尾は

1. -dqun/-dkun
2. -qtud/-gtud
3. -tuqai/-tugai
4. -su
5. -suqai/-sugai
6. -ya/-ye
7. -'ujiyi
8. -'ujai/-'ujei

の如くである。之等の中，(1)(2) は「複数の話し相手に対する荘重な命令」を表わし，(3) は「三人称の命令形」である。(4) は「一人称単数（単数の話し手）の希望」を表わし，(5) はその複数形，即ち「一人称複数の希望」を表示する。併し此処で注意すべきは (5) の「一人称複数」は exclusive で，「inclusive の一人称複数の希望」は (6) の -ya/-ye によって示されている事である。古典期の蒙古文語では，(4)(5)(6) の以上の区別は，すでに明かでなくなっているが，中世蒙古語では，可成りの厳密さで守られている。又，(7) の -'ujiyi は「話し手が，話し相手及び他の三人者がある行為をするのではないだろうか，という心配，懸念を表わす」語尾で，(7) は単数の相手に，(8) は複数の相手に対して用いられると原則的には云い得る。(8) の -'ujai/-'ujei は又，指上形としても用いられる。尚，(2) の -qtud/-gtud は珍らしい形で，秘史の中に二例見られ，文語の -ɣtun/-gtün の複数形である。(N. Poppe 教授によれば，-ɣtun/-gtün も本来は -ɣtui/-gtüi の plural form であるが，よく調査しないと，此の様に云い得るか否かわからない。）以上で秘史蒙古語に於ける命令形の諸語尾の概観を終えたので，最後に，中世蒙古語に見られる総ての終止形語尾の表を作って，此の小論を閉じることにしよう。

(1) 終止形時称語尾

時称	男性形		女性形	指上形	指下形
	単数	複数	単数		
現在及び未来	-mu	-mui	-mi	-mui	-mu
	-yu	*-yui	-yi	*-yui	-yu
	-u	-uyi, -ai	-i	-uyi	-u, ai
	(-n)	-d			
過去及び完了	-ba/-be	-bai	-bi	-bai	-ba
	-ju'u (-cu'u)	-ju'ui (-cu'ui)	-jigi(-cigi), -ji'ai	(-cu'ui) -ju'ui (男性) -ji'ai (女性)	-ju'u (-cu'u)
	-lu'a/-lu'e, -la'a/-le'e	-lu'ai, -la'ai/-le'ai	-ligi, -liyi	-la'ai/-le'ai (複) -la'a/-le'e(単)	-lu'ai (複) -lu'a/-lu'e(単)
	-'a	-'ai	*'-i	-'ai	-'a

(2) 終止形命令語尾

種類・数	単数	複数
命令形 (対二人称)		-dqun/-dkun
		-qtud/-gtud
命令形 (対三人称)	-tuqai/-tugai	
希望形 (exclusive)	-su	-suqai/-sugai
希望形 (inclusive)		-ya/-ye
懸命形	-'ujiyi	-ujai/-ujei

註

§1.1 註 1. 蒙古語を，古代，中世，近代の三段階に分けるのは，N. Poppe: Grammar of Written Mongolian. (1954. Wiesbaden.) に見られる見解である。私も此の区分の大綱には賛成である。

註 2. 漢字音訳蒙古語資料に属する「盧龍塞略」の蒙古語は16世紀末の資料と認められるがその他，15, 16 世紀に属する文献は殆ど見られないと云ってよい。

註 3. 漢字音訳蒙古語資料の数は少なくはないが，代表的なものは，元朝秘史全十二巻と華夷訳語鞋靼館雑字及び来文の所謂甲種本の二本であろう。その他，「至元訳語」「盧龍塞略」その他二，三見られるが，資料的価値としては，前二者には劣ると思われる。

註 4. ウイグル式蒙古学による諸資料は，成吉思汗石を始めてとして，近年 W. Cleaves 教授が [H.J.A.S] に次々と発表された諸碑文があり，吾々は，教授の此の労作によって，中世の蒙古文

語を知り得る様になった。教授の研究に心からの敬意を表したい。

註 5. パスパ字蒙古語の資料は，その大部分が N. Poppe: The Mongolian Monuments in hpags-pa Script. (1957. Wiesbaden) に収められ，大いに研究の便宜が与えられた事は喜ばしい限りである。

註 6. アラビア字蒙古語資料も Poppe 教授の労作 Монгольский Словарь Мкаддимат Ал-адаб (1938. Москва) 及び Das Mongolische Sprachmaterial einer Leidener Handschrift (Известия Академии Наук СССР, 1927) があり，吾々の研究に多大の便宜を与えて呉れる。教授の労に心から感謝の念を禁じ得ない。

註 7. 「元朝秘史」の原名が「蒙古の秘史 (Mahgqol-un niuca tobca'an)」であるか否か，という原名についての論稿は小林高四郎：元朝秘史の研究 (1954 東京) に詳しい。

註 8. 「元朝秘史の蒙古語を表わす漢字音の研究」と題する服部先生の優れた労作が見られるが，その他，元朝秘史の言語を詳しく取扱った労作は少い。A. Mostaert: Sur quelque passages de L'histoire Secrète des Mongols. (1953. Harvard-Yenching Institute) はその少い中でも白眉に属する労作である。尚 G. Doerfer: Beiträge zur Syntax der Sprache der "Geheime Geschichte der Mongolen" (Central Asiatic Journal. Voll 1 1955. Wiesbaden) があるが，未見である。

註 9. I.J. Shmidt: Grammatik der mongolischen Sprache. St. Petersburg, 1831.
Б.Л. Котвич: Лекции по грамматике монгольского языка. С- Петерсбург 1902.
А. Бобровников: Грамматика монгольскаго языка. Санкперерсбург 1835.
Д.Д. Руднев: Лекции по граммтике монгольского письменного языка. С-Петерсбгру 1905.
L. Hamibs: Grammaire de la langue Mongole écrite. Paris 1946.
K. Grönbech, J.R. Krueger: An introduction to classical literary Mongollian.
N. Poppe: Grammar of written monglian. Wiesbaden 1955.

註 10. L. Hambis: Grammaire de la Langue Mongole Ècrite (1946. Paris) では，過去の語尾 -bai を -ba の女性形，-ji'ai を -ju'u の女性形としている。後者は正しいが，前者は間違いである。-ba の女性形は -bi である。

註 11. ① 小沢重男：元朝秘史蒙古語の動詞語尾—特に -bi と -ligi～-liyi について—(東京外国語大学論集 Vol. 4. 1955 東京)
② 小沢重男：中世蒙古語に於ける二つの動詞語尾 (亜細亜語研究 6 号 1954)
③ 〃 〃 元朝秘史蒙古語に於ける副動詞語尾 -run について (「アルタン・トプチ研究 1」所載 1954 東京)
④ 〃 〃 元朝秘史蒙古語に於ける副動詞語尾 -ru について (「アルタン・トプチ研究 2」所載 1959 東京)
⑤ 〃 〃 中期蒙古語に於ける女性動詞語尾の一系列 (耕文 6 号) 東京外国語大学耕文会 1955 東京

§ 2.1 註 1. -bi, -ligi ～ -liyi に関しては私の上掲論文 ① に，-jigi (-cigi) に関しては，W. Cleaves: Sino-Mongolian Inscription of 1335 の註 (151) に見られる。

§ 4.1 註 1. 私は此の小論に於ては，所謂意義素の設定については，殆ど言及してない。その理由は，二，三の語尾の意義素の研究が未だ不足しているからである。将来，全語尾の意義素についてまとめて論及したい。

§ 4.2 註 2. 四部叢刊本元朝秘史には「哈黑抽」乾着として現われている。此をこのまゝ転写すれば，「haqcu」となるが，私は qadcu (中舎惕抽) の誤写と見做して (q)a(d)cu の様に転写した。

§ 6.1 註 1. 「服部四郎：元朝秘史の蒙古語を表わす漢字音の研究」に従う。

§ 6.3 註 2. N. Poppe: Die Sprache der Mongolischen Quadratschrift und das Yüan-chäo Pi-shi. Asia Major-Neue Folge 1944. 1. Heft.

§ 7. 註 1. N. Poppe: Grammar of Written Mongolian. 1954 Wiesbaden.

§ 8. 註 1. § 6.1 の註 1 服部先生の上掲書による。

§ 8.3 註 2. パスパ字蒙古語資料の唯一の例は，The Edict of Dharmapāla's Widow の中に見られるものである [Poppe: 上掲書 (§ 1 の註 5)]

§ 9. 註 1. § 2.1 の註 1 を参照。

§ 9.3 註 2. Cleaves 教授の註は以下の如くである。
The form ögcigi is extremely interesting. It is the feminine form of the praesens

perfecti in-cigi of the verb ög- "to give" "to grant."—中略—From the examples it is clear that this feminine form was used not only when the subject of the verb was feminine, but when the action performed by a masculin Subject was, so to say, for feminine benefit.—後略—

II

元朝秘史に表われる動詞終止形

1. -mu の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
yabu-mu	行く	—9五; 五15—	baiyi-mu	立つ	三38六
odu-mu	行く	—19五	unda'asu-mu	渇く	四39五
ire-mu	来る	—19八	bolu-mu	～である，なる	四41三; 七33十
ugule-mu	云う	—21四;三30七,十; 十28—	a-mu	～である	五4四,五, 40七; 七48五;十24四,37八; 十45六; 十33九
uje'ulu-mu	見せる	—43十			
sa'ulu-mu	座らせる	—44十	joba'a-mu	困らせる	五13三
ebedu-mu	痛む	二1四	gebte-mu	横たわる	六46二; 十40—
abura-mu	救う	二22三	cadu-mu	飽きる	七24一
ke'e-mu	という	二23五, 33六; 六7七;十28二,三;十21五, 22四, 31二, 五, 十, 32三	yada-mu	できない，困る	七29四; 十9三
			ide-mu	食べる	八12六
			sedki-mu	考える	八14六
			amu-mu	休む	八20二
ke'egde-mu	といわれる	十34四, 五	ogu-mu	与える	八29四; 十15十, 16九
uiyila-mu	泣く	二34九			
dungqodu-mu	吼る	二34九; 十46九	mede-mu	知る	十21七; 十22七
naita-mu	ねたむ	二37一	ge-mu	委せる	十21二, 四
naitaqda-mu	ねたまれる	九23四	ayala'ulu-mu	征旅する	十17七
sonosta-mu	きこえる	二42八			

2. -mui の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
kereldu-mui	話しあう	—12八	sa'ara-mui	疑う	五26五
odu-mui	行く	—37八	jobo-mui	苦しむ	五36一
qojida'ulu-mui	遅らす	二2二	qadquldu-mui	殺しあう	六3四
kildu-mui	共にする	二8四, 12六	ugule-mui	云う	六6二; 十22六, 24九
bolqa-mui	ならす	二10—			
bolu-mui	なる	五48五; 八21六; 十36七	jalbari-mui	祈る	六16八
derbelu-mui	ふるえる	二42七	qurimla-mui	宴をはる	六50六
a-mui	～である	二49十; 五4一, 40八; 十27二, 45六; 十48八	quca-mui	吠える	七10七
			ire-mui	来る	七14七
ke'egde-mui	～といわれる	三20十; 五4五; 七11一, 14—, 23九, 十, 27二; 十5八; 十18二, 26八	ihe'egde-mui	庇護される	八11一
			oro-mui	入る	八21七
			joki-mui	適する	八21八
			qarqaqda-mui	出される	十7三
			saki-mui	守る	十7四
ke'e-mui	～という	四12五; 五44八; 六4十, 26七; 十7三; 十28五, 47六	joboldu-mui	共に苦しむ	十7五
			asara-mui	世話する	十7六
			yada-mui	できない，困る	十30九; 十9二
ji'a-mui	告げる	三39三	sogodge-mui	ひざまづかせる	十36七
			oyisulaldu-mui	害する	十36九

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
cirge-mui	ひっぱる，ひきずる	土5八	ji'urmede-mui	(病が)重くなる	土22六
			talbira-mui	放たれる	土22七
ilqa-mui	区別する	土22十	ha'ulqa-mui	奔らせる	土49一
adala-mui	呪う，仇する	土21六，九，22四			

3. -mi の接尾された語

[Leid.] p. 1037 qarpami "herausgehen lassen"

4. -yu の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意場	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
bui-yu	～である	一4四，11三，12八，13五，15二，19四^{2}，19八，20三，45八，49三；二33十^{2}，34一，39六，九，44四，五；三1九，20五，31六；四9七，17七，45十，46三，50六^{2}；五3六，4二，30八，九，36五，40七，八，42八，43二，七；六5一，6三，13七，39一；七37五；九12十；十25十^{2}；土4九，8九，33十	tusuru-yu	傾ける	四7四
			a-yu	～がある，～である	四50四
			yabu-yu	行く	五13二；六38九，41十；土17九
			ugule-yu	云う	五31二；土31九
			bolqada-yu	～される，なられる	五48三
			joki-yu	適する	六3五，六
			yada-yu	出来ない，困る	六23二，五
			bui-yu	～である	七5七，6七，九，10九，31三，36三，38十，39五，47四
			torda-yu	つまる	七38一
			jasa-yu	治める	七38一
bolu-yu	～になる，～である	三27七；八22四	qarbu-yu	射る	七38四，六，七，八
			qocoru-yu	残る，後れる	七39八
nereyidu-yu	名づける	一35九	qocorda-yu	残られる，後れられる	七39八
qara-yu	見る，眺める	一45七			
ujegde-yu	見られる，見える	一45七	amu-yu	休む	九9十
ke'egde-yu	～と云われる	二29十；七38十，39六	bu-yu	～である	十22九
			ya'ara-yu	急ぐ	土23九

5. -u の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	味所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
bol-u	～である，～になる	土29六，32二；土33			二；六11十，13五，六，26八；七36九，37九，46二；土34九
ayis-u	来る，近づく	二19七，29八，32一，二，八，33八；三39	ayu'ul-u	恐れる	六21六

6. -uyi の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
bol-uyi	～になる	四19七；八8一，二

7. -ai の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
ayis-ai	来る	土15四			4三
ayis-ai	来る	四4一；七31八，33五，34四，35八；土	dobtul-ai	襲う	六4五

8. -i の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
ayis-i	来る，近づく	二45二; 三10四, 14三; 四11四, 12五, 34一; 十1十	bol-i	～になる，～である	十25三, 五, 28十
			olu-yi	得る	一35八

9. -d の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
ugule-d	云う	一13四, 六; 七13二	nisi-d	打つ	九34八
uqa-d	覚る	一13七; 九2十	mokori'ulu-d	斬る	九34七; 十45九
temece-d	争う	一44一, 十	bau'u-d	宿営する	十34四
qubiyaldu-d	分け合う	五17七	morila-d	出馬する	十2八
abcira-d	持って(連れて)くる	六17四; 七9九	soyu-d	教える	十45十
			yabu-d	行く	七34一
else-d	降服する	六20二	ide-d	食べる	七34二
qadquldu-d	闘い合う	六20三	eyetuldu-d	相談する	十5六
kemgeri-d	砕ける	七10一			

10. -ba の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
alda-ba	失う	三1五; 八43三; 十37八	bol-ba	～になる，～である	17三, 六, 20四, 21二, 22七, 24九, 25六, 26一, 五, 29二,
ile-ba	遣す	三4四, 16四	〃	〃	32一, 34二, 九, 36五, 七, 37八, 39七,
ire-ba	来る	三1六, 5一; 五6四; 九23六, 九, 28三; 十11七, 十; 十16三			九, 十, 40二, 42八, 43三, 45六, 47一, 49
ke'e-ba	～と云う	三1六, 12七, 十; 五26二, 31二; 九15四, 十; 九24一, 五, 29七, 30五, 36十, 44一, 48二; 十4二, 5三, 六, 九, 十, 6三, 十, 9八; 十22四	〃	〃	一; 十3一, 7二, 10三, 11三, 16九, 19一, 26二; 十12三, 16八, 17五, 21七, 24
			〃	〃	六, 七, 八, 28七, 40二, 43四; 十6三, 7十, 8十, 10八, 11七, 12八, 16七, 八, 28
bol-ba	～になる，～である	三5三, 18六, 19二, 三, 31五, 45五; 四15六, 43十, 50十; 五21	〃	〃	三, 30六, 37六, 39十, 40七, 42八, 43二, 46八, 54五, 56三, 四, 六, 八, 57八
〃	～になる，～である	六, 25五, 46八, 49七; 六24二, 35七, 九, 52十, 53四; 七3			
〃	〃	四, 十, 14八, 19七, 21七, 47九; 八9十, 11一, 13一, 二, 三, 五, 14一, 22五, 九,	ebed-ba	痛む	三5三, 四
			sacu-ba	祭る	三7八, 8三
			deled-ba	打つ	三7九, 8四
			una-ba	落ちる，倒れる	三7十, 8五
〃	〃	25一, 27一, 29九, 30六, 31六, 34六, 38六, 40四, 41七, 42三, 五, 44二, 47三,	emus-ba	着る，はく	三7十, 8五
			bari-ba	摑む，握る	三8一, 六
			onola-ba	(矢を)番える	三8一, 六
			gurge-ba	到らせる，送る	三10一
〃	〃	48三; 九2六, 4六, 八, 6一, 六, 7八, 9三, 10二, 16一, 三,	morila-ba	乗馬する	三10二; 十35四
			baiyi-ba	立つ，止まる	三12八; 五25七; 七34九, 36一, 39三; 十

ローマ字転写	語幹の意味	場所
dauli-ba	奪い取る	38三
tusulca-ba	烈しくなり合う	三13九, 14一
ol-ba	得る	三15十
od-ba	行く	三16三
		五14四; 六26三; 七43三, 十14四, 28六; 十1五, 23四, 34五
og-ba	与える	九7五; 十16二, 21十, 22一, 23七; 十16四
elus-ba	得る	三20三
jori'ul-ba	目指さす	三20四
uliged-ba	根絶しにする	三21七
eburid-ba	懐く	三21八
oro'ul-ba	入れる	三21九; 四43八
da'ari-ba	経過する	三32七
asaq-ba	尋ねる	三45一[2],二;六5三; 七33五, 37六; 十16五
adu'ula-ba	(馬を)放牧する	三46一
amu'ul-ba	休ませる	三48九, 49一
alaba	殺す	四15二; 六23九
asura-ba	世話する	四17九
iregde-ba	来られる	四19六
ja'u-ba	咬む	四27八
yorci-ba	去る	四28六; 十8一
yabu'ul-ba	行かせる	四33三
qono-ba	泊る	四34十, 38一; 十2二
ta'alaqda-ba	愛される	四35十
neke-ba	追う	四37三, 四
qadquldu-ba	闘い合う	四37九
qonoldu-ba	泊り合う	四38三
bara-ba	終る, 尽る	四39五; 五13二; 九13八
ujegde-ba	見られる	四40四
ihe'e-ba	加護する	四40五
u'u-ba	飲む	四40七; 十29六
oro-ba	入る	四41七, 九; 五13三
sengtel-ba	開ける	四43五
uiyila-ba	泣く	四46五; 十36一
qarda-ba	手にかける	五2十[2]
qaila-ba	叫ぶ	五4八
soyurqa-ba	賜う	五7九; 七49二; 十13十
ubulje-ba	冬を過す	五12五
yada-ba	出来ない, 困る	五15五; 六36一; 九28六
tabi'ul-ba	放させる	五16二; 六19三; 十55五
gur-ba	到る	五18六; 八44五; 十42二
abqa'ul-ba	取らせる	五18八
eyetuldu-ba	相談する	五19五
ab-ba	取る	五22六
a-ba	ある, いる	七47一
abcira-ba	持って(取って)来る	五23八
sa'u-ba	坐る	五24二; 十19六, 七五26一; 十24九
amurli-ba	休む	五28十; 十55二
muqudqa-ba	困窮する	五30十
qocor-ba	残る, 後れる	五33八
dau'uliqda-ba	奪われる	五36二
otol-ba	年とる	五36三
qa'uci-ba	老人になる	五48七; 十7一; 十27十
qari-ba	帰る	五49七
bolqa'a-ba	ならせる	六1九
ba'u-ba	下りる, 宿営する	六5六
jasaldu-ba	治め合う	六5七
ke'eldu-ba	云い合う	六9三; 十2二
daru-ba	圧する	六16三
hiluqad-ba	投げつけられる	六29七, 43八; 十41十, 43一, 二; 十21二
ba'u-ba	下る, 宿営する	六21八
ayu'ulu-ba	恐れさす	六21九
qadquqda-ba	闘われる	六22五, 33八; 七42九; 九8五
qaqaca-ba	はなれる	六22九
anggicira-ba	はなれる	六24五
sirqulda-ba	這い込み合う	六30五
dauliqda-ba	奪われる	六31七
cimad-ba	叱る	六34九
qaqaca'ul-ba	はなす	六35一
nayida-ba	嫉む	六36三; 八17七, 18一, 41一; 九8七, 23八; 十24五, 六, 七
yabu-ba	行く	六42二
uqaqda-ba	覚られる	六44五
ucira-ba	会う	六45九
jabqa-ba	間に合う	七2二, 4四
tala'ul-ba	捕虜にする	七30一
qatara-ba	駈ける	七32五, 六
jasa'ul-ba	治める, 直す	七48十
ta'ala-ba	愛する	八14四
qamtud-ba	一緒になる	八18三
nokoceldu-ba	伴となり合う	八18四
qamtudqa-ba	一緒にする	八18五
jori-ba	志す	八19一
bolda-ba	なられる	八20八
daruqda-ba	圧せられる	八21五
sonosda-ba	聞える	

ローマ字転写	語幹の意味	場所
bari'ul-ba	つかませる	八22十
caqla-ba	数える	八32一
qucildu-ba	めぐる	八37一
dau'uli-ba	奪う	八44八
to'ori-ba	廻る	九8五
teji'e-ba	養う	九11八
qari'ul-ba	帰らす	九11十
qono'ul-ba	泊り合う	九12二, 三
qojida-ba	後れる	九17五
mede'ul-ba	知らせる	九29一, 十
aqalaqda-ba	兄とならられる	九43四
aqala-ba	兄となる	九43八
ca'ura'ul-ba	出征させる	十10九, 17九
a'ulja'ul-ba	会わせる	十11二; 廿10二
bulqa-ba	闘う	十11二; 廿10三
bayas-ba	喜ぶ	十12六
soyu(r)qaqda-ba	賜られる	十13四
a'ulja-ba	会う	十13六, 15三
ilqa-ba	区別する	十18八
abu-ba	取る	十21十; 廿16十
dungqud-ba	物を云う，叱る	十23二; 廿17二
bolulca-ba	なり合う	十23九
emi'e-ba	懼れる	十29二
ayu-ba	恐れる	十31二; 廿8七, 45七
buru'ud-ba	逃げる	十31八
sogodke'ulde-ba	膝まづかせられる	十35十
cir-ba	ひきづる	十38九
barinldu-ba	つかみ合う	十38十
una-ba	落ちる，倒れる	十39二
talbi-ba	放つ，置く	十39三
bolqada-ba	ならせられる	十43三
odda-ba	行かれる	十43七
jarira-ba	止む	十44八
hor-ba	ふりむく	廿2一
e'ere'ul-ba	改めさせる	廿2九
qar-ba	出る	廿13一
bolqa-ba	ならせる	廿12二; 廿53九
baraqda-ba	終られる	廿13五
so'e-ba	滅ぼす	廿39四
tuta'a-ba	逃げる	廿39六
daiyiji'ul-ba	反く	廿40四
tulbal-ba	きる	廿24一
ilaq-ba	勝つ	廿24二
qadqu-ba	闘う	廿24二
soqta-ba	酔う	廿24六
morilaqda-ba	出馬される	廿29八
tarqaqda-ba	散られる	廿30八
alaqcila-ba	偏向する	廿32八
hulede-ba	追う	廿34四
gurge'ul-ba	送らせる	廿55七
a'ul-ba	あらせる	廿55九
neme-ba	加える	廿55十
buru'usiye-ba	非難する	廿57四
sonos-ba	聞える	廿57七
dau'us-ba	終える	廿58七

11. -bi の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
tore'unl-bi	生む	一10五, 11二, 12七 24五
ke'e-bi	～と云う	一14五; 二8七, 42九, 45二, 四, 六, 46九; 五22十
ugule-bi	云う	一14六
ko'ule-bi	子を生む	一23六
tore-bi	生まれる	一41六
bol-bi	～なる，～である	二2十; 七10八, 29八, 九; 廿22一
teji'e-bi	養う	二6二
gur-bi	到る	二6三
mau'ula-bi	悩む	二12八
bos-bi	起きる	二43三
uqa-bi	覚る	二41五
ire-bi	来る	二45六
yorci-bi	去る	五22十
sa'u-bi	坐る	五23十
seu'ure-bi	溜息する	五25一

12. -be(1) の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
ke'e-be	～と云う	三3一, 30三, 31二, 八, 39五, 七, 40二, 46四, 十, 47四, 九, 48九, 49二, 三, 七; 四9九, 16一, 23三, 39六, 41三, 七, 42一, 43一, 46五, 49五; 五6七, 7一, 五,

ローマ字転写	語幹の意味	場所
		23五,26六,35一,50十;六12九,14八,17四, 七, 42四, 50八, 51十;七15九,17一, 19九,28九,37一;八32二, 46三; 九2四, 十,3一, 17八,19二; 十30十,38一,39四, 43八;土17一,23四, 27四, 29七, 八, 30一, 31二, 十, 32二, 三;土32十,36二,57十
ile-be	遣わす	三9四, 31二, 35九; 四27十,28四,45十; 五34二; 六34四, 35三,37五,46四;十27十; 土1十, 19一, 37六, 41八, 42五, 43四; 土36一
ugule-be	語る	三31一; 六5五, 42九; 土29九
tejiye-be	養う	三33二
og-be	与える	三33一; 四15五[2], 22八, 23一, 三, 六, 27五;五27七,35八, 九;六25四,28三;八24六, 48一; 九1二, 2八, 10五; 十13八, 16三, 四, 23二, 三, 四, 五, 六, 七, 八,31五; 土8四; 土13三
kigde-be		四18五
uku-be	死ぬ	四29三
ire-be	来る	四34二,40三,42六; 五7五,9一,12二,14二;六12九,13九,14
ge'yi-be	(夜が)明ける	四40八
sengtel-be	開ける	四43六
tejiye-be	養う	五14九
gouol-be	動く	五28三; 六29三
ogte-be	与えられる	五34九
moke'ed-be	つく	六12二
nogci-be	去る	六19二
koki'ulde-be	そゝのかす	六21九
gurge-be	到らせる, 送る	六28四;七46十;八38二; 十1六
hulde-be	追う	六40二
gur-be	到る	六47二;七1八;土45五
ge-be	すてる	六49九
medegde-be	知られる	六51三
ine'e-be	笑う	七9八
otol-be	老ける	七10三
uku'ul-be	死なせる	七11三
hulegde-be	残る	八19七, 20一
sedki-be	考える	八28八
gedki-be	踏む	八29一
osge-be	育てる	八29二, 三
tusi-be	委す	八30十
nokoce-be	伴となる	八36六; 十40四
uiyiled-be	行う	八43四
tusi-be	委す	十25七, 八, 九, 26三, 四[2], 五
hice-be	恥じる	十31二
bugud-be	囲む	土42二
kinggul-be	横断する	土24二
bute'e-be	遂行する	土10九
neme-be	加える, 増える	土57九

13. -bai(2) の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
bolu-bai	～なる,～である	二2三
ba'u-bai	下りる,宿営する	三10十,42二,四;四16五;五32一;六21一;八4三;土2七,11三, 52八;土1十, 26四
qono-bai	泊る	三16五;四47一;五29九;六10三;七43一
bolqa-bai	成らす	三22十,23二,50二; 四1七, 八, 26五;九36三; 土53十
hamtel-bai	破り, きりとる	三23一
uludge-bai	絶滅する	三23二
arbila-bai	多くする	三23三
ke'eldu-bai	～と云い合う	三23四, 26一; 四31八;五15二,20二,36八, 37四, 47二, 48二;六5九, 十; 七32四

ローマ字転写	語幹の意味	場　所
andacilaldu-bai	アンダとなり合う	三26九
og-bai	与える	三24三;四17五,19三,20八,22五;五34六,50八;八14二,24五;十10一
icu-bai	退る	三25一,四;四16二;六17七;十31三;十6十
busele'ul-bai	とりまく	三28一,四
unu'ul-bai	衰らす	三28二,五
neu'u-bai	移動する	三29九;六18七,八;十41四
godol-bai	動く	三32八;六1五,15一
ire-bai	来る	三34三,五,七,九,十,35二,三,四,五,六,八,十²,36二,四,41一,二,三,四;四6一,四,五,六,48三;五2九,4九,5四,6七;六8五,44一;七23六;十6七,12九
uje'ul-bai	見せる	三38一
tusi-bai	委せる	三49八;七18五,六,八;十51五
ile-bai	遣わす	三50三;四12七,13六,32四,47四;五46一;六19十;八1十;十1五,15三,37二,三,41九;十20九
qor-bai	かくれる	四4八
qorqa-bai	かくらせる	四4九
abu-bai	取る	四10七;七43五
mede-bai	知る	四11四
hi-bai	する	四15八
asigi-bai	なぐる	四18十
cabci-bai	破る	四19一
morila-bai	出馬する	四19八;六2九;十1三,11九,37二;十1四
dau'uli-bai	奪う	四19十;五18二;七45五;十20二
duta'a-bai	逃げる	四20一
bari-bai	つかむ，握る	四20三
gur-bai	到る	四20七;六2四,五;十43十
ge-bai	すてる，委ねる	四20十;七8一
teji'e-bai	養う	四24十
ulidke-bai	絶滅する	四26三
abaldu'ul-bai	取り合わせる	四27四
gurte-bai	到られる	四28四
ergu-bai	奉る	四31六;十14二
yabu'ul-bai	行かせる	四33四
talbi-bai	放つ，置く	四33六
talbi'ul-bai	放たせる，置かせる	四33七,八
teberinldu-bai	抱き合う	四46八
sa'ul-bai	坐らせる	四47二;十53五
uda-bai	久しくなる	四47七
ke'e-bai	～と云う	四47七,48三,四;九35一,36四,38六,八,九,39一,47七;十8六,九,十,9三,五,六;十8九;十2二,27四,42三,46三
kidu-bai	虐殺する	五1五;十13四
ubulje-bai	冬を過す	五1六;七4七
qari-bai	帰る	五5二,47二;十1八;十3一
icu'a-bai	退らせる	五9三
jasaqlaldu-bai	規定し合う	五17十
godolge-bai	動かす	五18一;十13一
eyetuldu-bai	相談する	五20一
jamsiya-bai	そこなう	五21二
uri-bai	喚く	五26五
mokori'ul-bai	斬らせる	五26六
aldu-bai	共にある	五37七
seregde-bai	覚められる	五47三
baiyi-bai	立つ，いる	六8四,9四,11八;十40九
daru-bai	圧する	六8六,十
dobtul-bai	突撃する	六8七,9二,四
yorci-bai	去る	六14八
oro-bai	入る	六15三,51二;七44二
qada'ul-bai	打たせる	六16五
bol-bai	～なる，～である	六17二,18五;九39十;十33三
to'alaldu-bai	共に数える	六18四
kunlde-bai	動く	六20五
uyele-bai	節になる，ふとる	六21三
ayu'ul-bai	恐れさす	六21四
joluqaldu-bai	共に会わせる	六27三
hilice-bai	はなれる	六33九
ucilaldu-bai	共に会う	六43十
yada-bai	出来ない，困る	六45十;七4六
sonosda-bai	聞える	六46一
abcira-bai	持って(取って)来る	六49五;八36三;十51二
buci-bai	囲む	六50十
tala'ul-bai	鳥にする	七1三;八4七;十5

ローマ字転写	語幹の意味	場所
		十, 7八
tuge'eldu-bai	共に分ける	七4二
abulca-bai	取り合う	七4三
oru'ul-bai	は入る	七19三
tungqa-bai	伝布する	七24六
tule'ul-bai	燃やす	七24八
qar-bai	出る	七42五,六,七,45六
quriya-bai	集取する	七43十
qubiya'ul-bai	分けさせる	八5三
od-bai	行く	八6九
ca'ura'ul-bai	出征させる	八10八, 24七
tubsidke-bai	平らげる	八18四
jolqaldu-bai	共に会う	八35三
negegde-bai	開かれる	八43十
busangqaqda-bai	四散させられる	八44十
tala-bai	曠になる	八45七; 土27八
a-bai	ある，いる	九1八
ilqa-bai	区別する	九36八
morila'ul-bai	出馬させる	十14三; 土16五
a'ulja'ul-bai	会わせる	十15九
muqudqa-bai	困窮させる	十30九
neyile-bai	合う	土4二, 14九, 43九
yabu-bai	行く	土7三
oci-bai	奏する	土9九
uiyiled-bai	行う	土13九
ab-bai	取る	土16二
ileldu-bai	共に遣す	土19三, 八
sedki-bai	考える	土20九
duradqa-bai	提起する	土22一
ba'ul-bai	下ろす,宿営させる	土40六
ayala'ul-bai	征旅させる	土48二,49三,十;土15八, 28三
dau'ul-bai	分配する	土14八[2]
u'u-bai	飲む	土24五
soqda-bai	酔う	土24九
aqalaqda-bai	兄となられる	土45七, 十
qarqa'ul-bai	出させる	土53四, 六

14. -ju'u, -cu'u の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
a-ju'u	ある，いる	一1三, 六,2六,5一, 五,6五,20四,35一, 44一, 三, 46五, 48一;二16四,19一,26七, 29八, 34八, 35一, 36九,39五, 九, 48六, 十; 三18一, 四, 十, 33九,34一, 二;四17六,40一,41三,50六;五9七,11五, 29七, 31八, 39二, 四; 六4十,6五, 11三, 十,23三, 六, 25九, 29五, 九, 十, 42六,48九,49一,51四;七6三,16四,六, 22九,23二,47八,49一;八5二,33六,36四,37九,45三;九42七;十18一,20十,40一; 土15一, 八, 16七, 20十,22二,三, 33八;土31十,44六
ke-ju'u	と云う	一8七,9七;二4八
ke'e-ju'u	と云う	一42九, 43一; 二1四,2三;五20三;七35八;八12六;九28六;十34八;土30一
qadqu-ju'u	刺す，突く	二3十
od-cu'u	行く	二4五
qo'oji-ju'u	(鳥等が)脱毛(羽)する	二13六
una-ju'u	落ちる，倒れる	二15八;六9七;八2九
šiberi-ju'u	育つ	二13六
qocor-cu'u①	後れる，残る	二15四
qocor-cu'u③	仝上	五39七;六11五;七6八
duta'a-ju'u	逃げる	三19六
tuta'a-ju'u②	仝上	五23七
tuta'a-ju'u④	仝上	六48八
bol-ju'u	なる，…である	三20九;四35九,41二;六23八;土17六
širqu-ju'u	遣込む	三21二
ire-ju'u	来る	四3四; 五26四; 七14八
cabuci-ju'u	切る，やぶる	四9一
ile-ju'u	遣わす	一33九;四12九,31十;七14二;十12二,34三;土18三,35八

①②。①と②とでは漢字面が異る。①は *諧捌児出兀 ②は *諧綽児出兀
③④。③と④とでは漢字面が異る。③は 土隆阿主兀 ④は 禿塔阿主兀

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
ayiqaqla-ju'u	ザン言する	五15三	qatara-ju'u	驚ける	七7四
oro-ju'u	入る	五15八; 六24一; 七5六	ine-ju'u	笑う	七9七
			baiyi-ju'u	立つ，いる	七37四
oro'ul-ju'u	入らせる	八32四	gure'ele-ju'u	囲みをつくる	七43七
asaq-ju'u	尋ねる	五20一	yorci-ju'u	去る	八3二
asaq-cu'u	尋ねる	六3二，七33二，35一，四，36四	bos-cu'u	起つ，起きる	八4八
			daru-ju'u	圧する	八4十
qorqaqla-ju'u	衆をつくる	五20四	abcira-ju'u	持って(取って)来る	八12九
samši-ju'u	そこなう	五20五，九			
yabu-ju'u	行く	五26四	aqda-ju'u	いられる，あられる	八17三
abura-ju'u	救う，報ずる	五35九			
qar-cu'u	出る	五44五; 十43二	oci-ju'u	回奏する	八31十
uri-ju'u	喚く	五46六	butu'e-ju'u	完遂する	八45六
ugule-ju'u	云う，語る	五48九; 七9九; 八12五	bariqda-ju'u	つかまれる	十21五
			ja'a-ju'u	告げる	十28六
bau'ul-ju'u	下ろす，宿営させる	六8八	sedki-ju'u	考える	十17三
qarbu-ju'u	射る	六49四	nogci-ju'u	去る	十37八，九
bari-ju'u	つかむ，握る	七5七	neyile-ju'u	合一する	十38三
ala-ju'u	殺す	七5八	qarqa-ju'u	出す	十44五
mariya-ju'u	嘶う	七六一	else'ul-ju'u	降服させる	十26七

15. -ju'ui, -cu'ui の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
ire-ju'ui	来る	一34八; 二13六; 四4三; 五2五，5八; 七7十，27九，28三; 十10十; 十52五; 十50二，八	uiyila-ju'ui	泣く	四7七
			ile-ju'ui	遣わす	四11二; 五33七，42七，43二; 七14十，25四，27七，42九; 十12九，33六; 十5二，18三，20四，30九
tore-ju'ui	生れる	一40八，九			
neu'u-ju'ui	移る	二5一	ileldu-ju'ui	共に遣わす	六48六
oro-ju'ui	入る	二7八; 五11三; 六20三; 十13六	ala-ju'ui	殺す	四15三，18五，46九; 九14八; 十18五
abura-ju'ui	報ずる，救う	二23四	ol-ju'ui	得る	四17二
yada-ju'ui	出来ない，因る	二48五	tono-ju'ui	脱かせる	四18四
gur-cu'ui	到る	三11八; 七32十	a-ju'ui	ある，いる	四21九，35七，46九; 六2七，3一，37三，48三; 七1六，26四，六，七; 八2八; 九19九，26二，三; 十8八
baiyi-ju'ui	立つ，いる	三12一; 五18六; 七32七			
bai-ju'ui	立つ，いる	四37八			
od-cu'ui	行く	三14三，17九; 四2八，九，5二; 五30九，48十; 八3九，10五; 十33五	butara-ju'ui	潰滅する	四36一
			budara-ju'ui	仝上	四45二
			yabu-ju'ui	行く	四34八; 十38五
buru'ud-cu'ui	逃げる	三14六	kodol-ju'ui	動く	四36六，七，八，九，37一，45四
bu-ju'ui	～である	三15六			
bari-ju'ui	つかむ，にぎる	三15九; 四8七，14一; 十21五	godol-ju'ui	動く	五30一，33二; 六30四; 八3七
bari'ul-ju'ui	つかませる，握らせる	五15七; 七6三	nilbu-ju'ui	唾をはく	五16四
			jolqa-ju'ui	会う	五23七
tusur-cu'ui	傾ける	四6十	ke'e-ju'ui	～と云う	五30十，40十，41二，三，六，44一，四，九，
ašigi-ju'ui	打つ	四7四			

ローマ字転写	語幹の意味	場所
		48四, 六, 49三, 六; 六3八, 4五, 六, 8二; 七6九, 7二, 11七, 12三, 五, 13八, 34四, 六, 38十, 39五, 九, 十, 46二, 48六; 八18二, 29五; 十8一; 十三4五, 30三, 五
ke'eldu-ju'ui	共に～と云う	七15六, 23三
qari-ju'ui	帰る	五32九
ta'ala-ju'ui	愛する	五39六
eke'er-cu'ui	攻める	六8九
ugule-ju'ui	云う	六16三, 48二; 七27九
bol-ju'ui	～となる, ～である	六21二; 八15九; 十33八; 十三57十
qocor-cu'ui	残る, 後れる	六42七
qatara-ju'ui	駆ける	七6五
tayi-ju'ui	祭る	七9七
necikile'ul-ju'ui	踏ませる	七9八
abta-ju'ui	とられる	七23一
ab-cu'ui	取る	十三4九
ukuldu-ju'ui	共に死ぬ	七43四
uku'ulu-ju'ui	死なせる	八3五
oci'ul-ju'ui	回奏させる	七48二
toridge-ju'ui	止める	七46四
qorqala-ju'ui	衆をつくる	八1六
yorci-ju'ui	去る	八4二
muqudqa-ju'ui	困窮させる	八4四
alda-ju'ui	失う	九14三
sedki-ju'ui	考える	九28八
janci-ju'ui	打つ, なぐる	十27二
qari'ul-ju'ui	帰らせる	十33十
sogodge-ju'ui	膝まつかせる	十34十
jibtula-ju'ui	消滅する	十45一
kidu-ju'ui	虐殺する	十三4八
ideldu-ju'ui	共に食べる	十三13八
dau'uli-ju'ui	奪う	十三38一
morila-ju'ui	出馬する	十三38四
duradqa-ju'ui	提言する	十三50八
jobsiye-ju'ui	承認する	十三52四, 十

16. -ji'ai, -ci'ui, -je'ai の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
a-ji'ai	～がある, ～である	一1四; 五22九
og-ci'ui	与える	一48三
neu'u-je'ai	移る	二3八

17. -jukui の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
ile-jukui	遣わす	七28五

18. -jugu の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
ile-jugu	遣わす	六6五

19. -la'a, -le'e の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所
ayisu-la'a	来る, 近づく	一42八
abu-la'a	取る	二9四; 七44五; 十三17一
odu-la'a	行く	二35一, 41八
qaru-la'a	出る	二50六, 十; 十三25二
qarbu-la'a	射る	四49五, 七
yabula'a	行く	五4三, 26二
bulqaldu-la'a	共に戦う	六51八
ayu'ulda-la'a	共に恐れる	八10四
ayu'ulu-la'a	恐れさす	八22三
bolu-la'a	～になる, ～である	八28五
bariqda-la'a	ある つかまれる, 握られる	九49三; 十三38九
bu-le'e	～である	一2九, 十, 3五, 7三, 10二, 六, 13三, 四, 17九, 18十, 23八, 九, 十, 25五, 八, 九, 十^{2}, 26九, 27一, 四, 五, 六, 七, 28二, 四, 六, 29四^{2}, 六, 30三, 四, 六, 十, 31一, 四,

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
		五,六,九, 十, 32一, 二, 39四, 41七², 八², 43八, 45五, 47二,49一;二15五,17五, 22十, 27五, 28一,33六, 七, 39二;三15九,21四,28九, 31四, 45九; 四8五, 六,十,12一,25五², 28二, 七, 八², 九, 十, 41十, 42三, 七, 九; 五3十, 4四, 19六, 25九, 30七, 45二,46五;六22十,23一, 31五, 35一, 36六, 八, 十, 37一, 38六,七,八, 41一, 八, 九, 42一, 51八, 52三; 七9二, 29七, 33七,37七;八14九,15一, 三, 18十, 20六,			21五,36六,37八,44四, 47七; 九2四, 4十,7二,13八, 15二, 三, 十, 17一; 十27一,七,30一, 二, 四, 七, 八, 37六, 38八, 39十; 土24一, 二, 四, 27三, 40一; 土3十, 29七, 32六, 七, 33八², 35一
			ogu-le'e	与える	二41七,八;七28三, 五; 土8二
			ire-le'e	来る	二45二
			ugule-le'e	語る	三1八; 七10二, 47三; 土24九
			ke'e-le'e	～と云う	三2三
			ogte-le'e	与えられる	五34八
			tore'ulu-le'e	生む	七10四
			uje'ulu-le'e	見せる	七29三
			uguleldu-le'e	共に云う	八17五, 八
			ki-le'e	する	八28三

20. -la'ai, -le'ai の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
abu-la'ai	取る	四14五			九; 五46七; 六2十,
ayisu-la'ai	来る，近づく	五6四			14五,九;七11七,24
a-la'ai	～がある，～である	土8六			十,37一;八34一,44一; 九5九, 15六, 19
coko-le'ai	絶望する	二37一			七, 八, 九; 十26十,
ke'eldu-le'ai	～と共に云う	三26五; 四20五; 五16一;六21十,22四,七			44三,十;土20四,26六,35九,36一;土37三
ke'e-le'ai	～と云う	六35五; 九28九; 土35十	ire'ul-le'ai	来させる	五9五
			tore-le'ai	生れる	土24十
bu-le'ai	～である	四4五, 9五, 18二,			

21. -lu'a, -lu'e の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場　所	ローマ字転写	語幹の意味	場　所
a-lu'a	～がある，～である	一26四	bara-lu'a	終る，尽きる	八39九
			alaqda-lu'a	殺される	九21九
ayisu-lu'a	来る，近づく	一43一	baraqda-lu'a	終られる	十44七
nidura-lu'a	乾く	二3七	talbi-lu'a	放つ，置く	土19九
ceu'ure-lu'a	砕ける	二3八	kele-lu'e	云う	二23二
odu-lu'a	行く	四43一	ke'e-lu'e	～と云う	八5一; 土35二; 土3五
qaru-lu'a	出る	四43四			
bariqda-lu'a	つかれる	五28八	ile-lu'e	遣わす	十35六
yabu-lu'a	行く	六4九, 6四, 35八	ogu-lu'e	与える	土16六
bau'u-lu'a	下りる,宿営する	七25四	ke'egde-lu'e	～と云われる	土22八; 土23六
idqa-lu'a	いさめる	七47六	ugule-lu'e	云う	土4五, 六

22. -lu'ai の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
uguleldu-lu'ai	云う	六22二	bolqaqda-lu'ai	ならせられる	土30九
kigde-lu'ai	される	土30八			

23. -liyi, -ligi の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
bu-liyi	～である	一37五; 二37五; 五22九	tore-ligi	生れる	二11四

24. -'a, -'ai の接尾された語

ローマ字転写	語幹の意味	場所	ローマ字転写	語幹の意味	場所
ire-'ai	来る	一48一	turu-'ai	擲せる	八7八
oyisulaqda-a	害される	一49二	bara-'ai	終る，尽きる	八7九
bari-ya	捕える	二18五	oroqda-'a	入られる	八34一
bolqaqda-'a	なされる	三4一	abu-'a	とる	八47九; 土16一
hamtunlde-'e	折り，割り，裂きとられる	三4三	aldu-'ai	共にある，いる	十4一
			ilaqda-'a	負ける	十27七
dungqudu-'a	物をいう，叱る	三31二	bosu-'ai	起きる	十35二
ala-'ai	殺す	五3七	dungqudu-'ai	物をいう，叱る	十36一; 土35五
anu-'ai	全癒する	六18十	haulda-'a	走る，奔走する	土38二
abu-'ai	とる	六28八; 土3四, 45一; 土11五	olu-'ai	得る	土35四
			jo'e-'ai	置く	土35五
ogu-'ai	与える	六36六,八,九,37一			

註 1. この -be は「原別作」と註記されている語，例えば「客額罷 原別作」ke'eba (-be) の -be を指す。本来なら上の様に ke'eba(-be) と記すべきであるが，繁雑なので ke'ebe と書いた。

註 2. この -bai は「原伯作」と註記されている語，例えば「孛魯罷 原伯作」bolba(-bai) の -bai を指す。本来なら，上の様に bolba(-bai) と記すべきであるが，繁雑なので bolbai と書いた。

[追記] 此の表は最初は漢字面を入れて作成されたものであるが紙数及び印刷の関係で漢字面を省略せざるを得なかった。

The System of the Indicative Endings in Middle Mongolian

The aim of this paper is to establish a systematic order for the indicative endings in Middle Mongolian.

In Middle Mongolian, especially in the language of *the Secret History of the Mongols*, we can find some indicative endings which do not exist in classical written Mongolian, for example: -bi, -ligi. I have previously established that these two endings are the feminine form of -ba / be, -lu'a / -lu'e[1] and that -la'ai / -le'ai, -lu'ai, are the plural form of -la'a / -le'e, -lu'a / lu'e[2].

In the process of establishing the above, it occured to me that it would be possible to systematize all of the indicative endings by reviewing them from the point view of gender and number.

This problem became the starting point for this paper, and I have attained hopeful results in systematizing all of the indicative endings by the above method. However, I have been unable to solve all of the problems concerning indicative endings by this method. For, when I examined the occurences of the endings -mui, -ju'ui etc. in *the Secret History of the Mongols*, for example, in about two-thirds of the cases these endings may be regarded as being the plural forms of -mu, -ju'u etc., but in the other one-thirds of the cases they are not used as plural forms. How these endings should be regarded in the cases when they are not used as plural form thus becomes a problem.

On the one hand I have given attention to the relationship between the endings -lu'a / -lu'e and -la'a / le'e, and have felt that in some way there was a difference between them. As a result of the investigation of these endings related in this paper, I have discovered that -la'a / -le'e is used as an honorific form for -lu'a / -lu'e (§ 3_1). This discovery is very important, for by applying this concept of honorific forms to the other indicative endings, such as -mui, -ju'ui, -bai etc. I have been able to determine that in the previously referred to cases where these endings are not used as the plural forms of the endings -mu, -ju'u, -ba, etc. they are used as the honorific forms of these endings.

As a result of this investigation the system of indicative endings in Middle Mongolian may be expressed as follows:

gender	masculine		feminine	honorific	unhonorific
number	sing.	pl.	sing.	form	form
present and future tense	-mu -yu -u	-mui *-yui -ui, -ai -d	-mi -yi -i	-mui *-yui -ui	-mu -yu -u
past and present tense	-ba -ju'u -lu'a / -lu'e, -la'a / -le'e -'a	bai -ju'ui -lu'ai, -la'ai / -le'ai -'ai	-bi -jigi, -ji'ai -ligi / liyi, *-'i	-bai -ju'ui -la'a / -le'e -'ai	-ba -ju'u -lu'a / -lu'e -'a

In conclusion I have appended the following list of system of imperative endings appearing in *the Secret History of the Mongols*.

	singlular	plural
(to 2nd person) imperative (to 3rd person)	-tuqai / -tugai	-dqun / -dkun -qtud / -gtud
(exclusive) voluntative (inclusive)	-su	-suqai / -sugai -ya
dubitative	-'ujiyi	-uji'ai

(1) See my article "The research of verbal endings in the language of *the Secret History of Mongols* ——especially -bi and -ligi~li'i——" in *Tokyo Gaikokugo Daigaku Ronsyu*. Vol. IV 1955. Tokyo Japan.

(2) See my article "The reseach of the language of *the Secret History of Mongols* (6) ——on -la'ail/le'ai and -lu'ai——" in *Tokyo Gaikokugo Daigaku Ronsyu*. VII. 1960.

Shigeo Ozawa
Assistant Prof. of Tokyo Uuiv. of Foreign Studies.